

第2期

薩摩川内市スポーツ推進計画

「市民が気軽にスポーツを楽しむ環境が整い、
日常的にスポーツを行っている」



薩摩川内市

はじめに



薩摩川内市長 田中 良二

本市では、「いつでも、どこでも、だれでもスポーツ活動を楽しむ環境づくり」を基本理念とした「薩摩川内市スポーツ推進計画」を平成28年度に策定し、市民の誰もが年齢や身体状況に応じたスポーツ活動を楽しむことができるよう、スポーツ教室やスポーツ大会の開催、スポーツ施設の整備等を実施してまいりました。

一方、新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々なスポーツイベントが中止され、市民のスポーツに親しむ機会が減少するなど、市民生活や社会活動に大きな影響が及びました。

このような中、令和5年度に「燃ゆる感動かごしま国体」が開催され、本市でもホッケー、バスケットボール、ウエイトリフティング、軟式野球、空手道の正式5競技を実施し、大きく盛り上がったところであります。

また、令和2年度に開催された「東京オリンピック」では、バレーボールアルゼンチン代表チームが事前キャンプを実施しました。

令和4年度に策定された国の「第3期スポーツ基本計画」において、東京オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツ・レガシーの発展に向けた施策が示されております。

このたび、本市においても、国の「第3期スポーツ基本計画」や本市総合計画を参酌しながら「第2期薩摩川内市スポーツ推進計画」を策定いたしました。

「市民が気軽にスポーツを楽しむ環境が整い、日常的にスポーツを行っている」を基本理念とし、「燃ゆる感動かごしま国体」や東京オリンピック事前キャンプ等のレガシーを活かした施策に取り組むほか、誰もがスポーツ活動を楽しむことができるよう、各種事業に取り組んでまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力いただきました薩摩川内市スポーツ推進審議会の委員の皆様をはじめ、貴重なご意見やご提案をいただきました市民の皆様にご心から感謝申し上げますとともに、今後のスポーツ振興により一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年3月

目 次

第1章 第2期スポーツ推進計画の策定にあたって

第1節	計画策定の趣旨	1
第2節	計画の位置付け	2
第3節	計画の期間	3
第4節	SDGsとの関連	4

第2章 スポーツを取り巻く社会環境

第1節	社会環境の変化とスポーツとの関係	5
1	ライフスタイルの多様化	5
2	少子化	5
3	高齢化	5
4	地域社会の空洞化	5
5	多様な担い手との協働	5

第3章 本市におけるスポーツの現状と課題

第1節	第1期計画の振り返り	6
第2節	本市のさらなるスポーツ推進に向けた現状と課題	7
1	市民のスポーツ活動	7
(1)	健康意識	8
(2)	運動・スポーツの実施状況	9
(3)	運動・スポーツを行った理由	10
(4)	運動・スポーツの種目	11
(5)	運動・スポーツを行わなかった理由	12
2	子どものスポーツ活動	13
(1)	未就学児のスポーツ活動	13
(2)	小学生のスポーツ活動	14
(3)	中学生のスポーツ活動	15
3	高齢者のスポーツ活動	17
(1)	健康・体力づくり運動の活動	17
(2)	介護予防運動の活動	18
4	障害者のスポーツ活動	20
5	地域のスポーツ	21
(1)	スポーツ参加機会の拡充	21
(2)	スポーツ団体への支援状況	23
(3)	スポーツ推進委員による地域スポーツ活動状況	26
(4)	総合型地域スポーツクラブの活動状況	27
6	競技スポーツ	28
(1)	スポーツ大会の開催状況	28
(2)	大会出場者への支援状況	28
(3)	スポーツ合宿誘致の状況	29
7	スポーツ施設の状況	31
(1)	公共スポーツ施設の状況	31
(2)	学校体育施設の状況	34
(3)	スポーツ施設の管理運営	35

第4章 計画の基本的考え方

第1節 基本理念	36
第2節 基本方針	36
1 交流人口の拡大と地域の活性化	36
2 生涯スポーツの環境づくり	36
3 競技スポーツの振興	36
4 スポーツ環境の充実	36
第3節 施策の体系	37

第5章 基本施策

基本方針1 交流人口の拡大と地域の活性化	38
1 スポーツツーリズムによる地域活性化	38
(1) スポーツイベントによる地域活性化	38
(2) スポーツ合宿による地域活性化	38
2 スポーツ情報の発信	39
3 ボランティアの育成	39
基本方針2 生涯スポーツの環境づくり	40
1 スポーツ機会の提供	40
2 生涯にわたるスポーツライフの支援	40
(1) 子どものスポーツ活動の推進	40
(2) 成人のスポーツ活動の推進	41
(3) 高齢者のスポーツ活動の支援	42
(4) 障害者のスポーツ活動の支援	42
3 生涯スポーツ推進体制の充実	43
4 スポーツ推進委員による地域スポーツの推進	43
基本方針3 競技スポーツの振興	44
1 競技スポーツ推進体制の充実	44
2 スポーツ選手の育成及び指導者の養成	44
3 大会出場者への支援	45
4 レガシー事業による振興	45
基本方針4 スポーツ環境の充実	46
1 スポーツ施設の充実及び利用促進	46
(1) スポーツ施設の充実	46
(2) スポーツ施設の利用促進	46
2 学校体育施設の利用促進	46

第6章 計画の推進と目標達成の実現のために

第1節 計画の推進	47
1 県・市関係部局間における連携	47
2 地域、学校との協力・連携	47
3 スポーツ団体・企業等との連携	47
4 市民の自主的活動の推進	47
第2節 計画の進行管理	47

第1章 第2期スポーツ推進計画の策定にあたって

第1節 計画策定の趣旨

スポーツは、健全な心身の発達を促し、豊かな人間性を育むとともに、生きがいのある健康で文化的な生活を営む上で、大きな役割を果たすものです。

本市では、平成28年3月に「薩摩川内市スポーツ推進計画」を策定、令和3年3月には「薩摩川内市スポーツ推進計画（改訂版）」を策定し、市民の誰もが年齢や身体状況に応じたスポーツ活動を楽しむことができるよう、さまざまなスポーツ教室やスポーツ大会を開催するとともに、各地域にある体育館やグラウンド等のスポーツ施設の整備・充実、スポーツ振興による地域の活性化を図ってきました。

しかしながら、近年のライフスタイルの変化、少子高齢化、情報化の進展、地域社会の空洞化、人間関係の希薄化など社会環境の急激な変化と長寿社会の拡大、健康ブームの到来等による健康づくりへの意識の高まりに加え、新型コロナウイルス感染症の流行による運動機会の減少などにより、市民のスポーツに対するニーズは多様化してきています。

そのため、「いつでも」「どこでも」「だれでも」気軽にスポーツを楽しめる環境を整備し、健康への意識が重要となる高齢者層への対応、また、児童生徒の体力低下及び運動をする子どもとしない子どもの二極化傾向の改善などを、より一層推進していかなければなりません。

国においては、平成23年6月に「スポーツ基本法」^{※1}が公布され、スポーツに関する基本理念と、国及び地方公共団体の責務やスポーツ団体の努力等が規定されるとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項が定められ、平成24年3月には、すべての人々がスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことができる社会づくりを目的とした「スポーツ基本計画」が策定され、平成29年3月には「第2期スポーツ基本計画」、令和4年3月には、スポーツを「つくる／はぐくむ」、スポーツで「あつまり、ともに、つながる」、スポーツに「誰もがアクセスできる」という新たな3つの視点を支える施策を示した「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。

鹿児島県においては、平成22年6月に今後のスポーツ推進の指針となる基本理念を定めた「スポーツ振興かごしま県民条例」^{※2}が制定されるとともに、基本施策等の取り組みの具体的な方向性を示す「スポーツ振興かごしま基本方針」が策定されています。

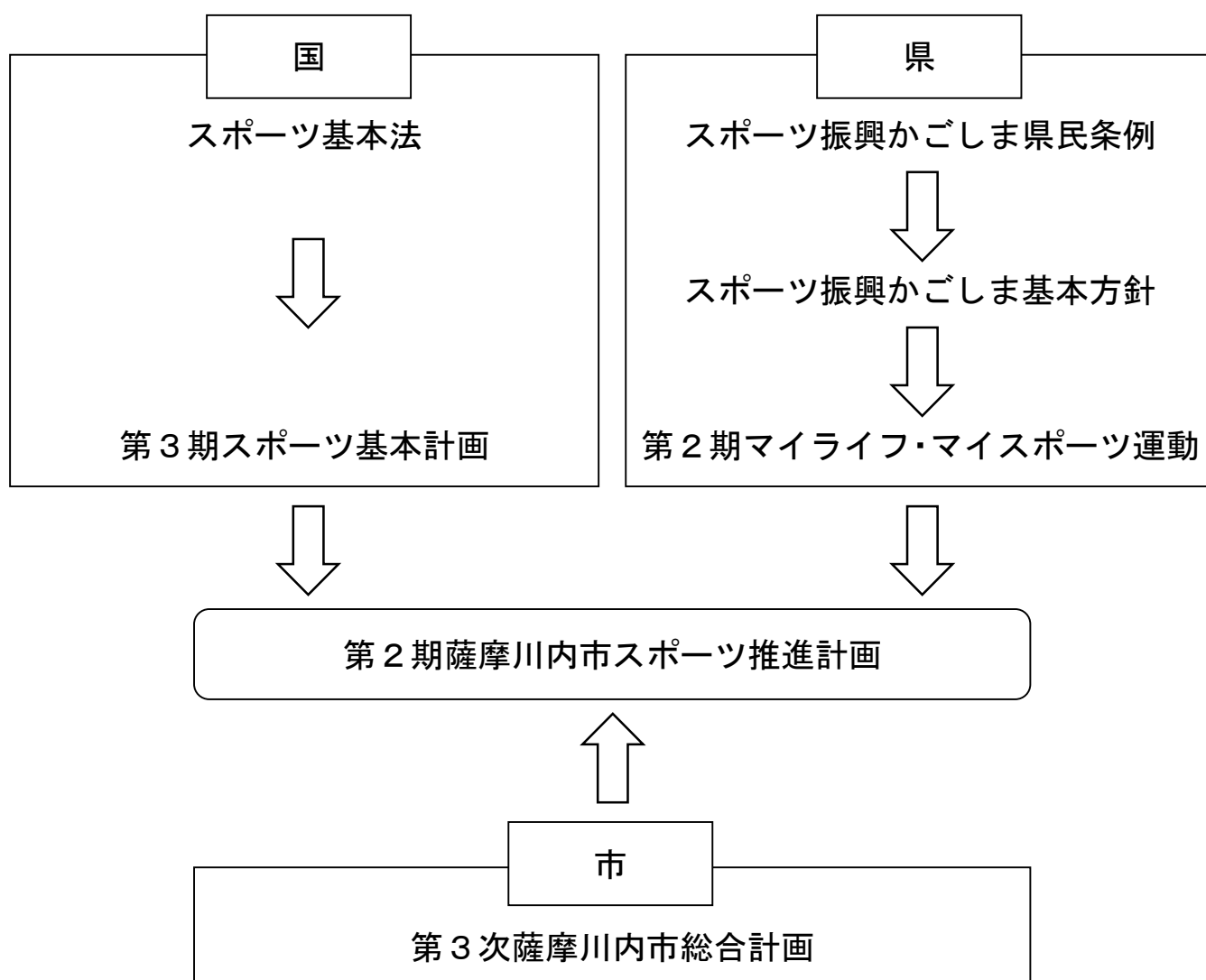
今回の計画の見直しは、国の第3期スポーツ基本計画を参酌し、本市の第3次総合計画等の取り組みを踏まえ、現在の本市を取り巻く現状と、現行の計画の進捗状況や課題に対応するため、施策等を見直しを行い、「第2期薩摩川内市スポーツ推進計画」を策定しました。

※1 スポーツ基本法：スポーツに関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務並びに、スポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めたもの

※2 スポーツ振興かごしま県民条例：スポーツに関する施策に関し、基本理念を定め、県の責務及びスポーツ関係団体の役割を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めることにより、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって県民の心身の健全な発達、心豊かな県民生活及び活力ある地域社会の実現に寄与することを目的としている。

第2節 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条の「地方スポーツ推進計画」の規定に基づく推進計画で、国の「第3期スポーツ基本計画^{※3}」や「スポーツ振興かごしま県民条例」、「スポーツ振興かごしま基本方針^{※4}」、「第2期マイライフ・マイスポーツ運動^{※5}」等を参酌し、「第3次薩摩川内市総合計画」の取り組みを踏まえながら、今後の本市におけるスポーツ推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画として位置付けます。



※3 第3期スポーツ基本計画：スポーツ基本法第9条の規定に基づき、文部科学大臣がスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定めるものであり、同法の理念を具体化し、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国の実現を目指す上での重要な指針

※4 スポーツ振興かごしま基本方針：スポーツの現状や県民のニーズを踏まえ、これからのスポーツ振興施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方向性を示したもの

※5 第2期マイライフ・マイスポーツ運動：県民の誰もが、それぞれの関心や適性に応じて主体的・継続的にスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、スポーツの楽しさや感動を味わい、生涯にわたって健康で活力ある生活の実現を目指し、「スポーツ振興かごしま基本方針」に基づき策定された「生涯スポーツ推進」の具体的な方策

第3節 計画の期間

計画期間は、令和8年度（2026年度）から令和17年度（2035年度）までの10年間を計画期間とします。

なお、本計画に基づく施策の実施に際しては、社会・経済情勢の変化に的確に対応するため、適宜その進捗状況の把握に努め、計画期間の中間年である、令和12年度（2030年度）に見直しを行います。

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度
国	第3期スポーツ基本計画													
県	第2期マイライフ・マイスポーツ運動													
市				第3次薩摩川内市総合計画基本構想										
				前期基本計画					後期基本計画					
				第2期薩摩川内市スポーツ推進計画										
										推進計画（改訂版）				

第4節 SDGsとの関連

SDGsとは、平成27年（2015年）9月の国連サミットにおいて採択された国際目標であり、17の目標から構成されています。

スポーツ庁はSDGsの達成にスポーツで貢献していくこととしています。本計画においても基本施策の各目標を達成することが、SDGsの様々な目標に関連しています。SDGsの目標を意識しながら、スポーツの推進を図ります。

なお、本市は令和4年（2022年）5月に「SDGs未来都市」に選定され、SDGsの達成に向けた取り組みを積極的に進めています。SDGsチャレンジを合言葉に、本市の未来をつくり・まもり・はぐくんでいきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



第2章 スポーツを取り巻く社会環境

第1節 社会環境の変化とスポーツとの関係

ライフスタイルの多様化や少子・高齢化など、社会の情勢や仕組みが大きく変化し、また、地域社会の活性化や協働の推進などの取組が求められている中で、スポーツにも多面にわたる役割が求められています。

また、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、運動をする機会が減少した中で、身体的及び精神的な健康を維持する上では、体を動かすことや、スポーツを行うことが求められています。

1 ライフスタイルの多様化

男女共同参画社会にあって女性の社会進出が進み、また、単身世帯や核家族が増加するなど、ライフスタイルや市民の価値観、ニーズも多様化しており、その中で、物質的な面で生活を豊かにすることより、心の豊かさやゆとりのある生活することに重きを置きたいとする傾向が強まっています。心の豊かさをもたらすための手段としてスポーツへの期待が高まっています。

2 少子化

少子化時代にあって、子ども同士の交流機会が減り、子どもの社会性が育まれにくくなるなど、子どもの健やかな成長への影響が懸念されていることから、学校や地域において、すべての子どもがスポーツを楽しむことができる環境の整備を図ることが求められています。

3 高齢化

高齢化が進む中で、高齢者の介護予防や心身の健康の維持増進の手段として、高齢者に合った身体活動やトレーニングへの期待が高まっています。また、セカンドライフを過ごすに当たり、多くの高齢者が新しい活動の場を地域に求めるようになっています。スポーツは共通の趣味となりやすいことから、地域参加へのきっかけとなり、スポーツとの関わりの中で生きがいや喜び、充実感などを得られることが期待されています。

4 地域社会の空洞化

子どもを犯罪や事故から守る地域の安全力、一人暮らしの高齢者を見守る地域の安心力、あるいは、地域ぐるみで子どもを育てる地域の教育力など、従来地域が有していた様々な機能が低下しており、地域社会での人と人との交流の希薄化が社会問題となっています。このため、地域の絆が改めて重要視されています。そうした中で、スポーツを通じた交流や連帯感は、地域社会の活性化や再生につながるものとして期待されています。

5 多様な担い手との協働

行財政改革への取組が進められている中で、スポーツにおいても市民や市民団体、大学、企業などとの協働による効果的・効率的な施策の展開が求められています。

第3章 本市におけるスポーツの現状と課題

第1節 第1期計画の振り返り

令和2年度に見直しを行ったスポーツ推進計画（改訂版）において設定した4つの基本方針に基づき事業を実施した結果、全ての事業において指標に達していない状況にあります。

令和元年度から令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツに親しむ機会が減少し、各指標に対する実績値も低下しましたが、令和4年度以降は平成28年度と同等またはそれ以上の実績となっています。

指標に達してはませんが、令和4年度以降は上昇傾向にあることから、継続的に取り組んでいくことが重要になります。

【基本方針1 生涯スポーツの推進】

各種スポーツ教室の参加者数										[人]
H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度目標値	
1,372	1,558	1,567	1,187	709	951	1,208	1,019	1,187	1,700	

【基本方針2 競技スポーツの振興】

九州大会・全国大会等への出場件数（全国大会等出場助成費交付対象件数）										[件]
H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度目標値	
126	144	167	131	30	77	161	170	167	180	

【基本方針3 スポーツ環境の充実】

スポーツ施設の年間利用者数										[人]
H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度目標値	
627,100	583,044	687,955	687,891	443,304	397,828	554,076	652,790	616,861	700,000	

【基本方針4 スポーツ振興による地域の活性化】

スポーツ合宿団体数										[団体]
H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度目標値	
85	92	78	48	34	28	66	83	83	100	

第2節 本市のさらなるスポーツ推進に向けた現状と課題

1 市民のスポーツ活動

令和6年7月から8月にかけて、市民を対象に「薩摩川内市スポーツアンケート調査」（以下「アンケート調査」という。）を実施し、スポーツに関する質問を行いました。アンケート調査の概要は次のとおりです。

平成26年度に実施したアンケート調査の結果と比較し、市民のスポーツへの意識及びスポーツの実施状況を示します。

アンケート調査結果全体を通して、スポーツを推進するに当たり、忙しい方々にも「気軽にできる運動・スポーツ」の環境整備が必要であるという結果が得られました。

また、スポーツに参加する「きっかけ」として各種スポーツ教室の充実が求められています。施設や設備を充実させるハード面での取り組みも重要ですが、まずは、スポーツ参加への第1歩として「参加しやすい」環境、スポーツ教室等の「情報提供の工夫・充実」等、ソフト面での工夫が必要であると考えられます。

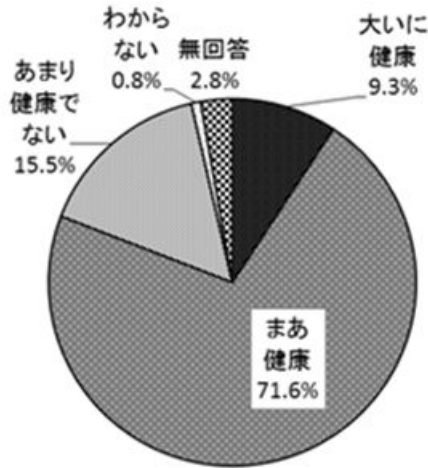
■ アンケート調査概要

調査年度	平成26年度	令和6年度
調査対象	平成26年4月1日現在、 市内在住の20歳以上 80歳未満の方	令和6年4月1日現在、 市内在住の20歳以上 80歳未満の方
サンプル数	2,400名	
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
調査方法	郵送（配布・回収）による調査	
調査期間	平成26年7月から8月	令和6年7月から8月
回収数（%）	721（30.0%）	641（26.7%）

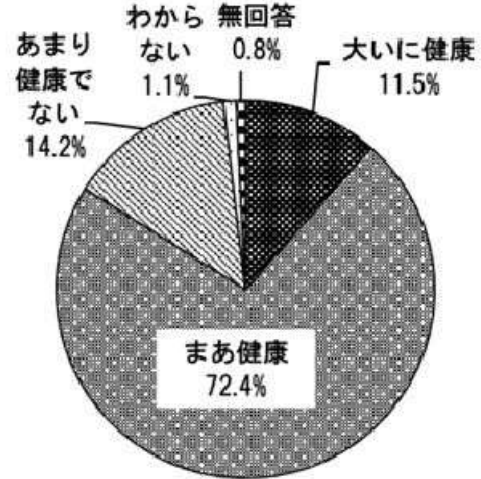
(1) 健康意識

アンケート調査によると、市民の健康に対する意識は、「大いに健康である」が11.5%、「まあ健康である」が72.4%となっており、市民の83.9%は自分が健康であると意識しており、前回調査（平成26年度：80.9%）と比較すると3.0%増加しています。

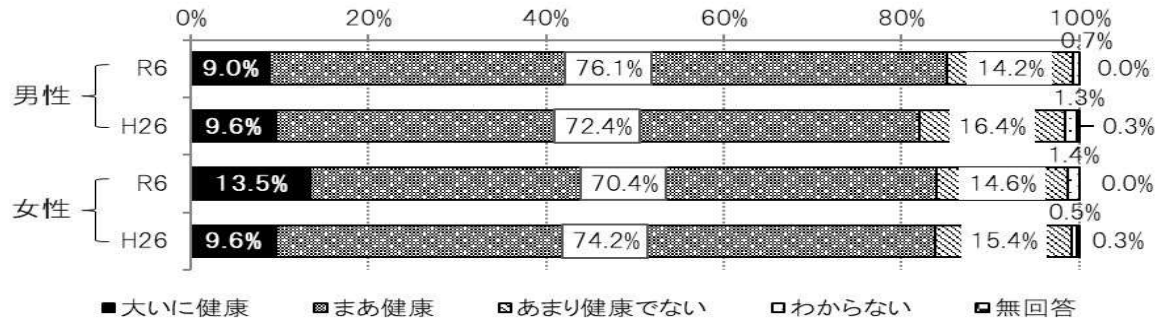
【平成26年度】



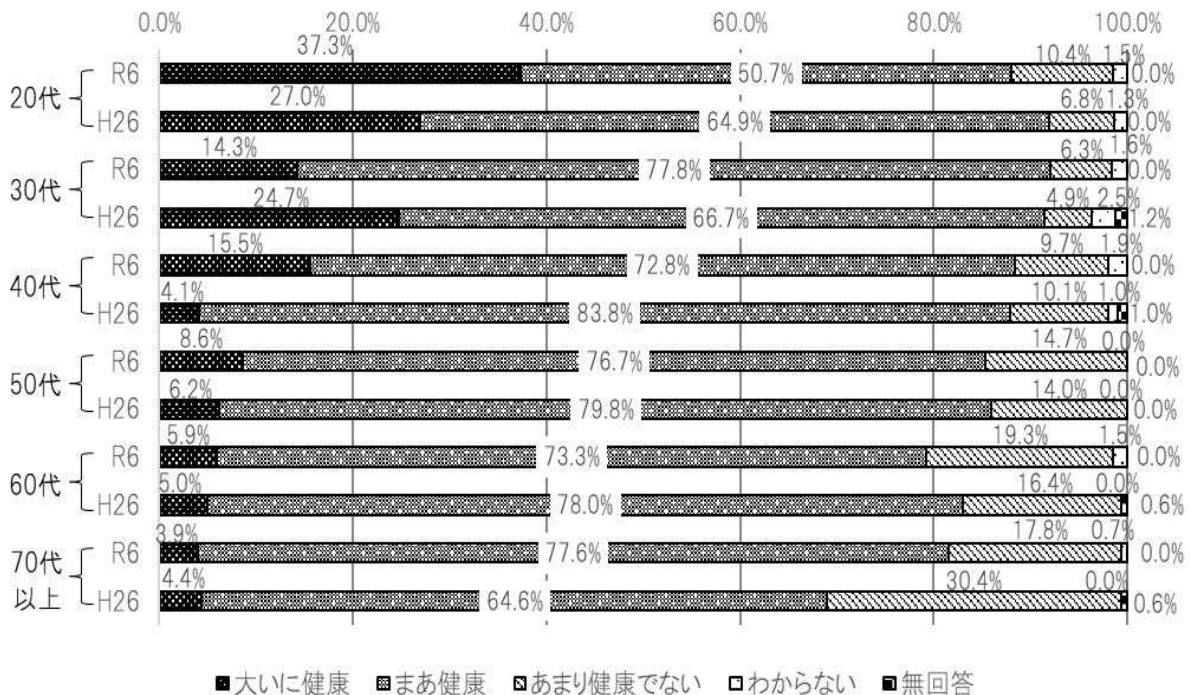
【令和6年度】



【成人の健康状態（性別）】



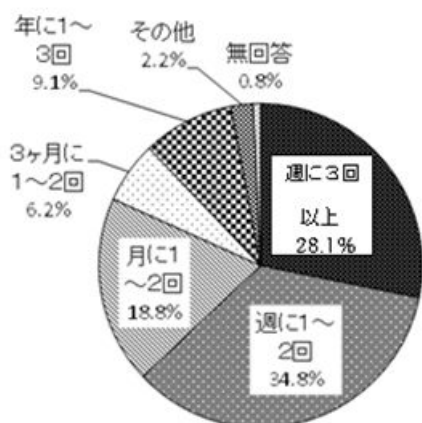
【成人の健康状態（年齢別）】



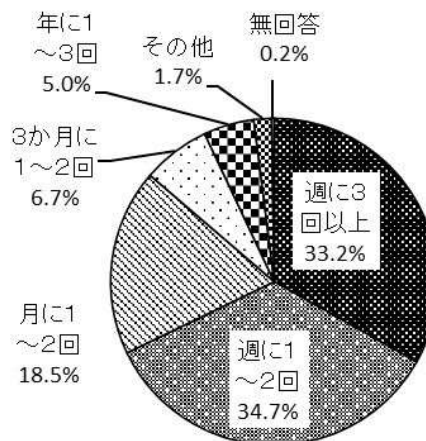
(2) 運動・スポーツの実施状況

現在、何らかの運動・スポーツを実施している人は、全体の62.6%で、そのうち、週3回以上運動・スポーツを行う成人の割合は33.2%、週1回から2回運動・スポーツを行う成人の割合は34.7%で、運動・スポーツをしている人の67.9%は、週1回以上の運動・スポーツをしていると回答しており、前回調査（平成26年度：62.9%）と比較すると5.0%増加しています。

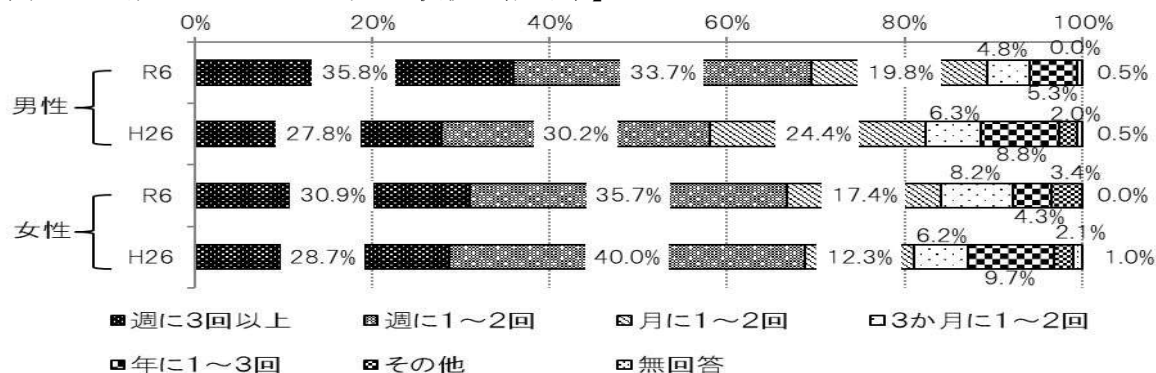
【平成26年度】



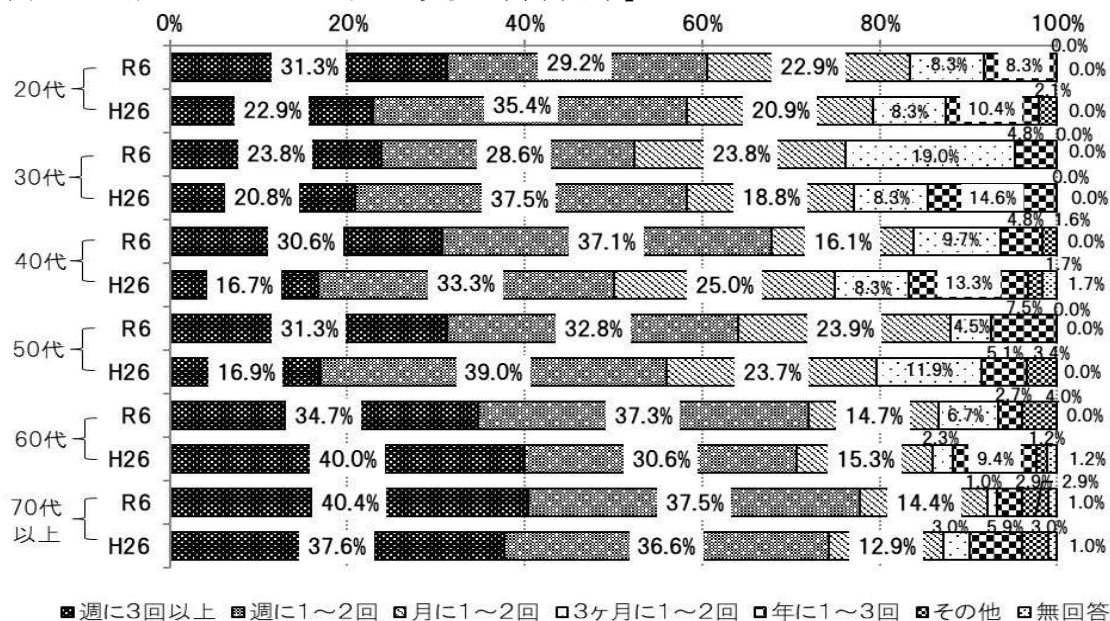
【令和6年度】



【成人の運動・スポーツの実施状況（性別）】



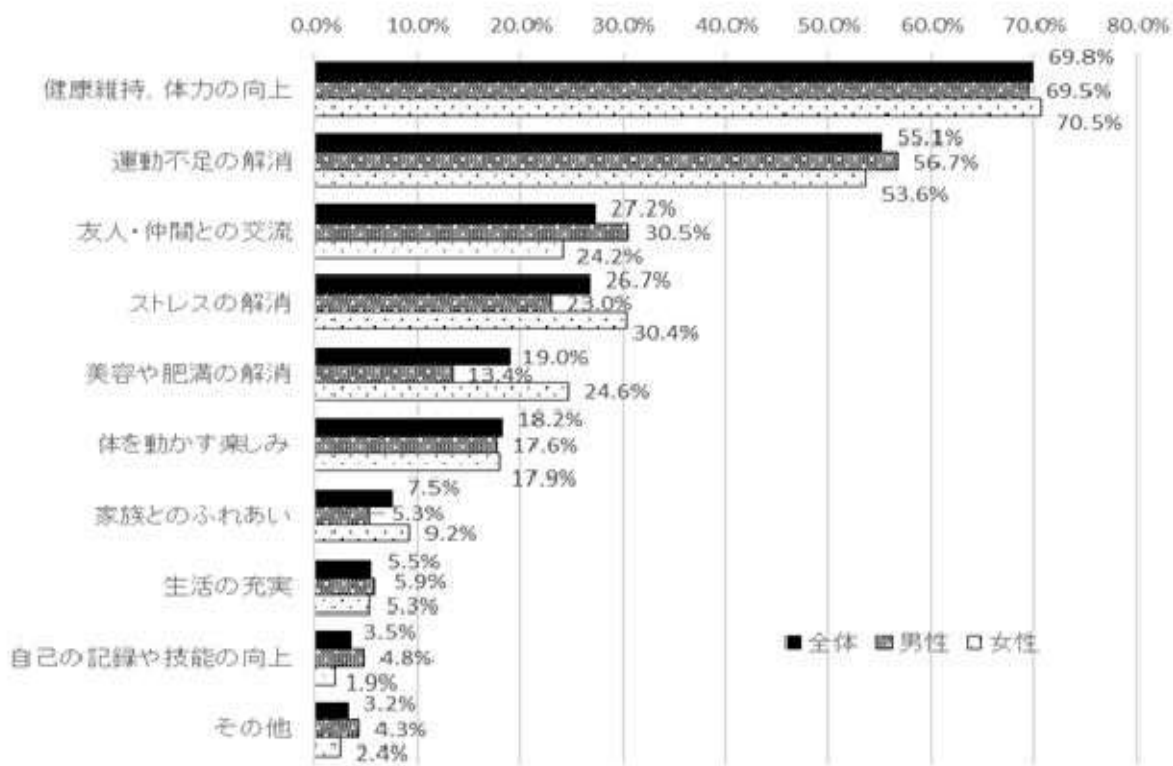
【成人の運動・スポーツの実施状況（年齢別）】



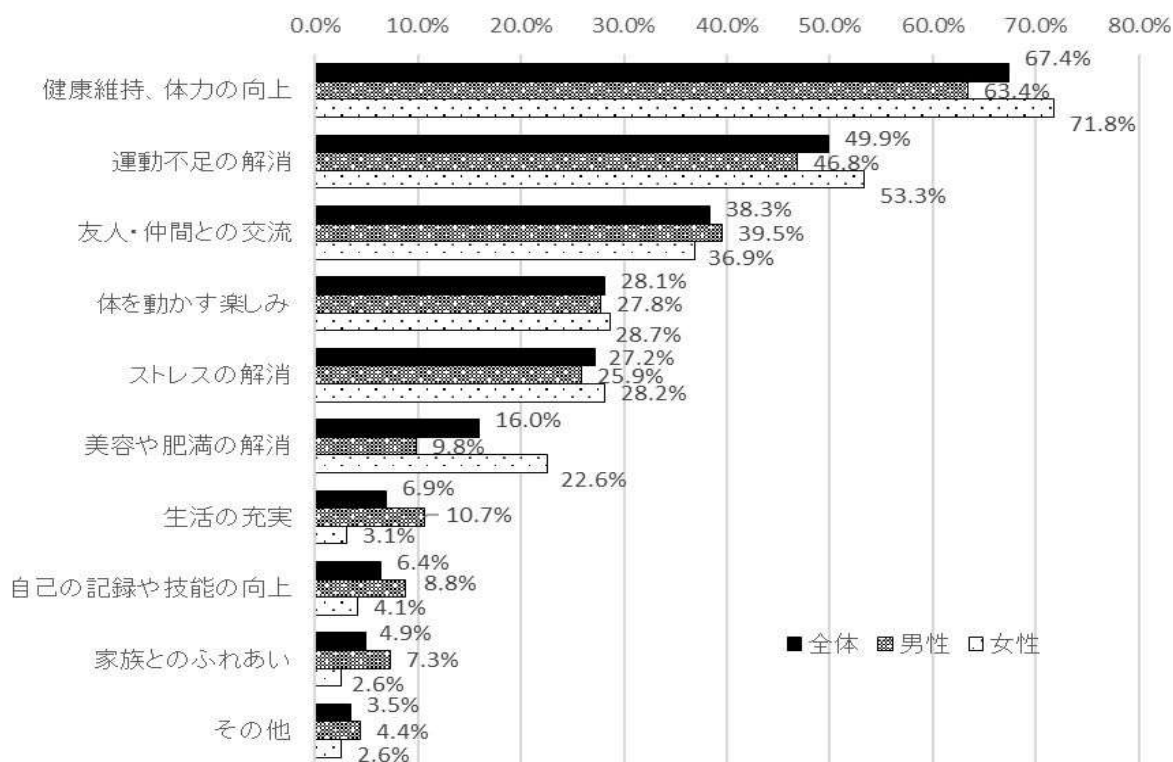
(3) 運動・スポーツを行った理由

運動・スポーツを行った理由の上位は、「健康維持、体力の向上」が69.8%、「運動不足の解消」が55.1%、「友人・仲間との交流」が27.2%、「ストレスの解消」が26.7%となっています。

【令和6年度】



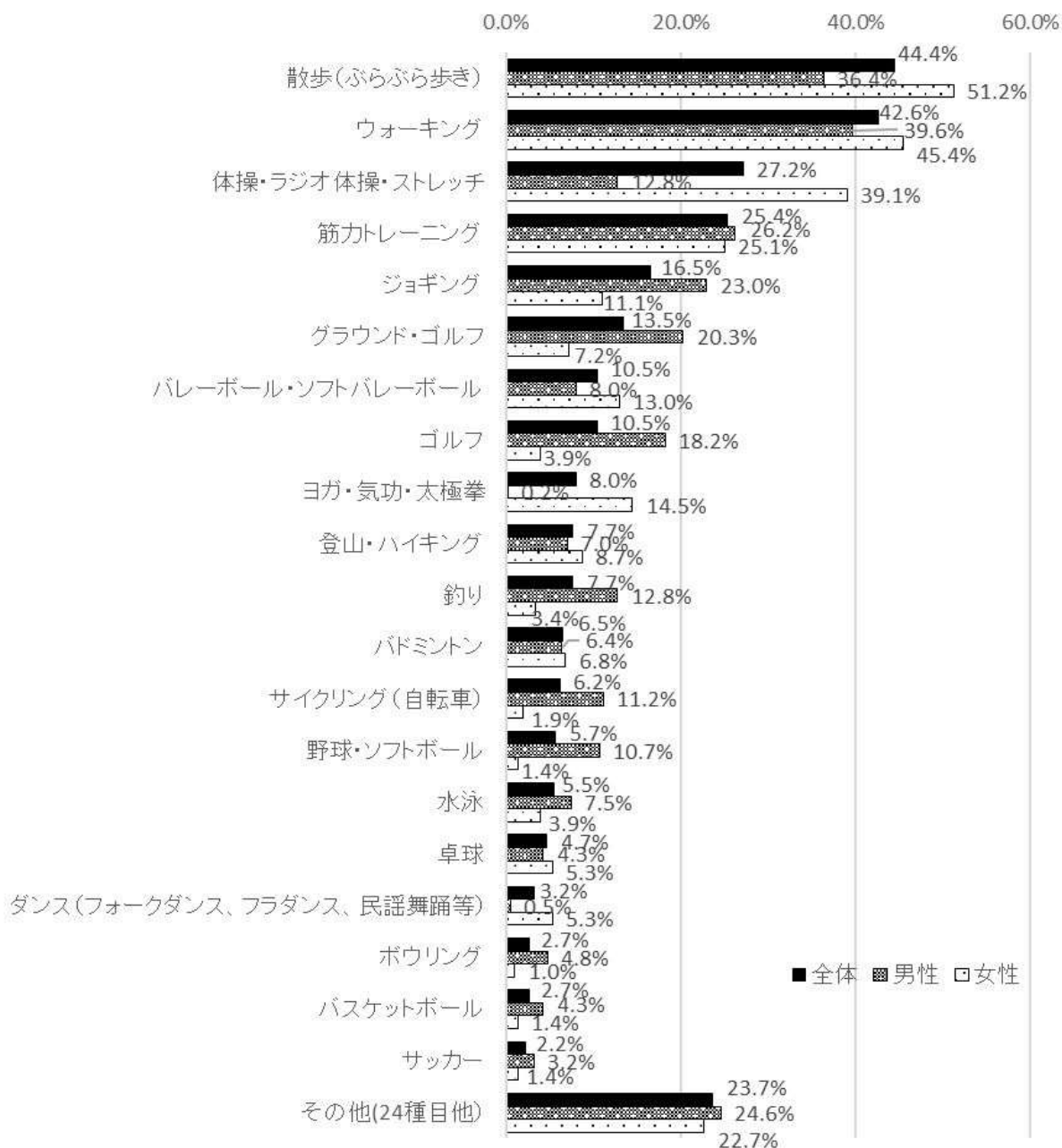
【平成26年度】



(4) 運動・スポーツの種目

普段行っている運動・スポーツとしては、「散歩」、「ウォーキング」、「体操・ラジオ体操・ストレッチ」など、個人で気軽に取り組めるものが上位にきています。

また、性別で見ると、男性が「ウォーキング」、「散歩」、「筋力トレーニング」、「ジョギング」、「グラウンド・ゴルフ」など人気が高く、女性は「散歩」、「ウォーキング」、「体操・ラジオ体操・ストレッチ」、「筋力トレーニング」、「ヨガ・気功・太極拳」など人気が高くなっています。

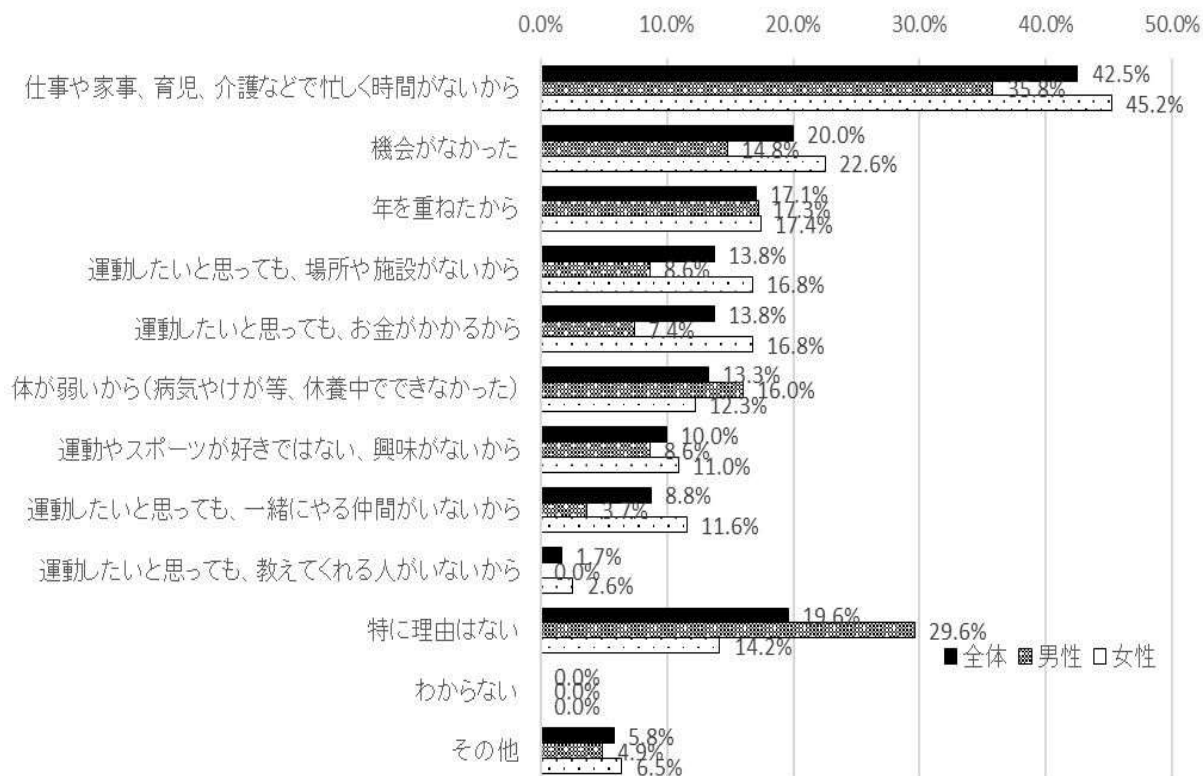


(5) 運動・スポーツを行わなかった理由

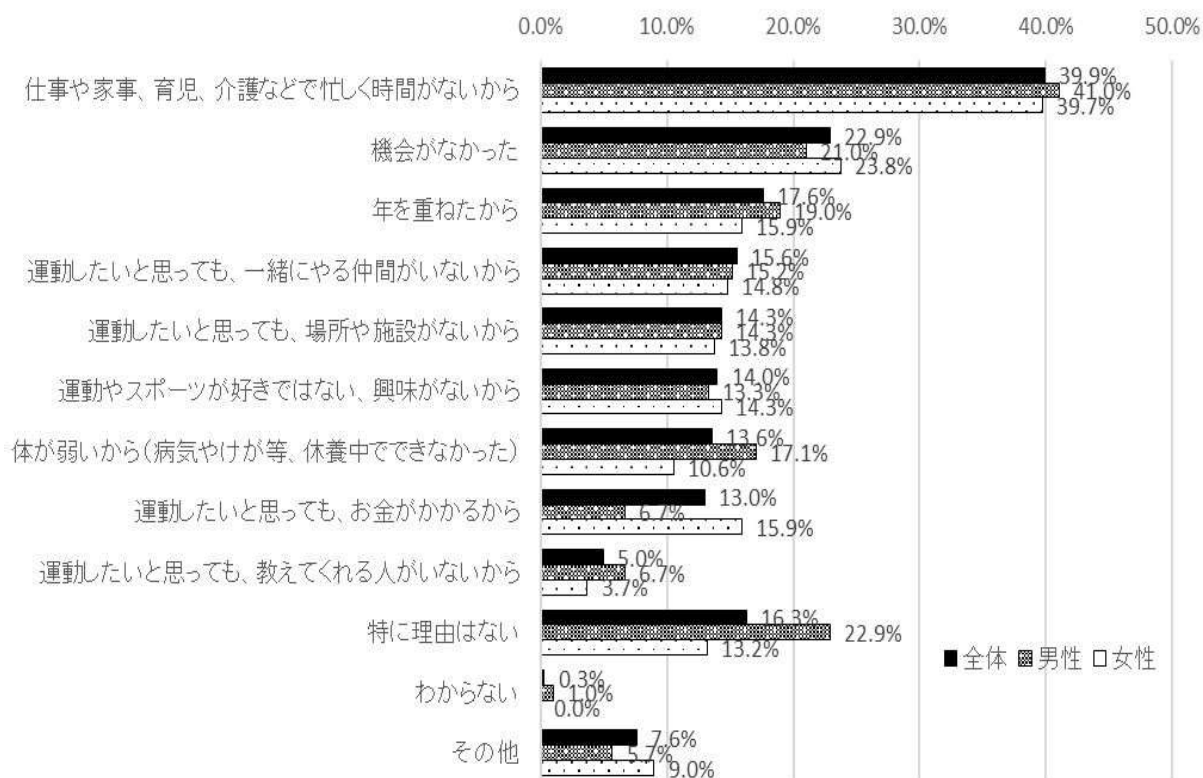
運動・スポーツを行わなかった理由は、「仕事や家事、育児、介護などで忙しく時間がないから」が最も多くなっています。

次いで、「機会がなかった」という意見が多くなっています。

【令和6年度】



【平成26年度】



2 子どものスポーツ活動

スポーツは、次の世代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重し、公正さと規律を敬い協調する精神や実践的な思考力や判断力を育むものであり、人格の形成に大きな影響を及ぼす重要なものです。

学校や地域等において、すべての子どもがスポーツに親しむことができる場と参加する機会の整備を図らなければなりません。

体育の授業や運動部活動・スポーツ少年団活動を通じて、子どもたちにスポーツの楽しさ、素晴らしさを体験する機会を整備することにより、生涯にわたりスポーツを楽しむ基礎を培い、豊かな人間性を涵養するとともに、夢をもち、挑戦することの大切さを学び、その夢の実現に向け、体力や競技力等の向上を図ることが必要です。

(1) 未就学児のスポーツ活動

幼児は、心身全体を働かせて様々な活動を行うので、心身の様々な側面の発達にとって必要な経験が相互に関連し合い積み重ねられていきます。このため、幼児期において、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは、多様な動きを身に付けるだけでなく、心肺機能や骨形成にも寄与するなど、生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりするなど、豊かな人生を送るための基盤づくりとなります。

幼児にとって体を動かして遊ぶ機会が減少することは、その後の児童期、青年期への運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成の障害に止まらず、意欲や気力の減退、対人関係などコミュニケーションをうまく構築できないなど、子どもの心の発達にも重大な影響を及ぼすことにもなりかねません。

このような状況を踏まえると、主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動を、幼児の生活全体の中に確保していくことは大きな課題となっています。

遊びを通して走る、飛ぶ、投げるなどの基本的な運動を体得するとともに、家族や子ども同士のふれあいも大切なことから、子どもの外遊びや運動にふれあう機会を創出する必要があります。

本市では、未就園児及びその保護者に対し、体操、ふれあい交流等の場を提供し、育児リフレッシュ事業を実施することにより、地域における子育て支援と児童福祉の充実を図っています。

■ 育児リフレッシュ事業参加状況

(単位：人)

会場		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
サンアリーナ せんだい	保護者	1,582	1,926	1,563	1,263	812	777	1,038	998	1,164
	子ども	1,768	2,074	1,734	1,454	935	917	1,080	1,074	1,199
	合計	3,350	4,000	3,297	2,717	1,747	1,694	2,118	2,072	2,363
樋脇保健センター	保護者	46	68	58	57	11	24	23	17	45
	子ども	72	127	107	98	13	31	25	20	49
	合計	118	195	165	155	24	55	48	37	94
上甕老人 福祉センター (※1)	保護者	55	26	30	28	20	18	7	15	23
	子ども	60	27	43	37	35	26	9	19	34
	合計	115	53	73	65	55	44	16	34	57
長浜地区 コミュニティ センター	保護者	81	32	96	54	32	21	31	31	29
	子ども	97	36	115	57	42	28	50	37	74
	合計	178	68	211	111	74	49	81	68	103

※平成29年度は、里公民館での活動を含む。

※参加者数には、通常の活動のほか催事（運動会、育児講習会等）の参加者を含む。

(2) 小学生のスポーツ活動

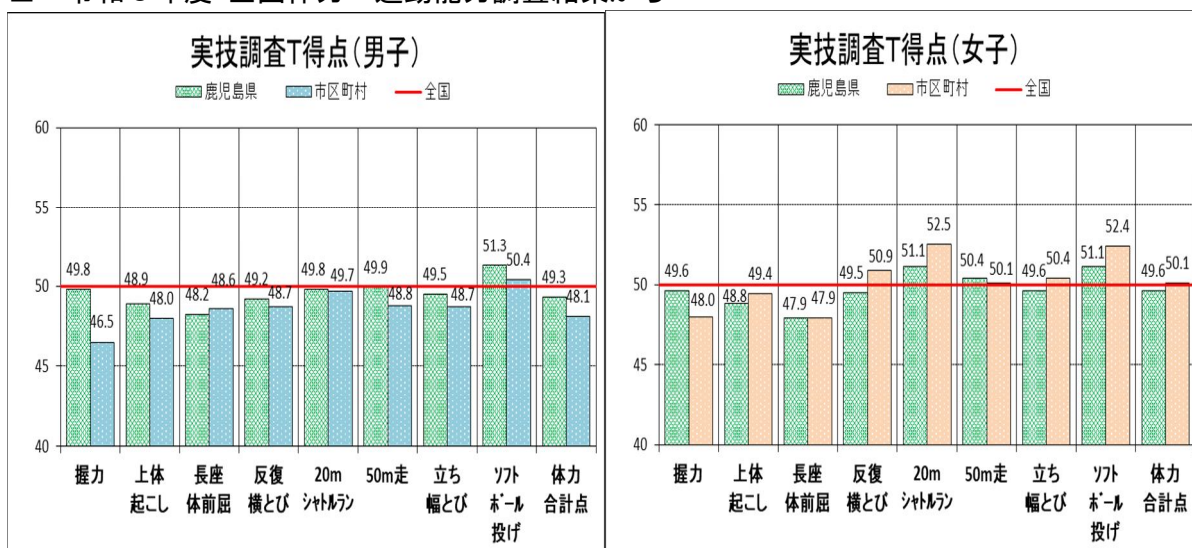
小学校においては、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを目指しています。

また、学校での体育授業以外に子どもたちのスポーツ活動促進のため、重要な役割を担っているスポーツ少年団及び子ども会などの地域・社会での活動を支援することも必要です。

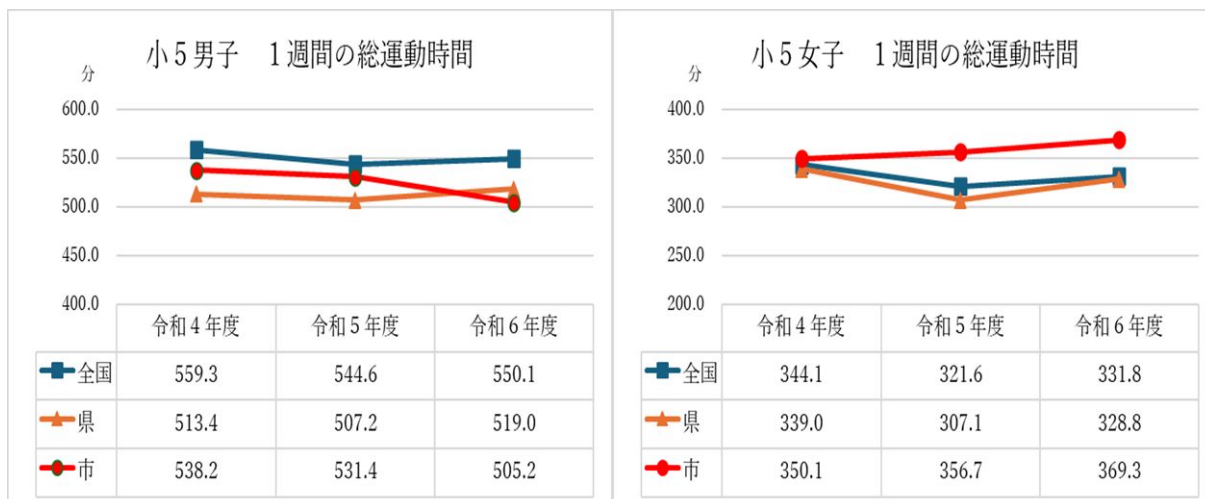
「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、本市の小学校5年生の体力・運動能力は、男子については全国、県よりも低い種目が多く、女子については全国、県より高い種目が多い傾向にあります。

また、運動時間については男子が減少、女子が増加傾向にあります。しかしながら女子の運動時間は男子に比べ少ないことから、今後も、屋外の遊びやスポーツに親しむ機会を意識的に増やすことが必要です。

■ 令和6年度 全国体力・運動能力調査結果から



※T得点：全国平均値に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較する。
 平均値50点、標準偏差10点の標準得点「T得点=50+10×(調査結果-平均値)/標準偏差」



(3) 中学生のスポーツ活動

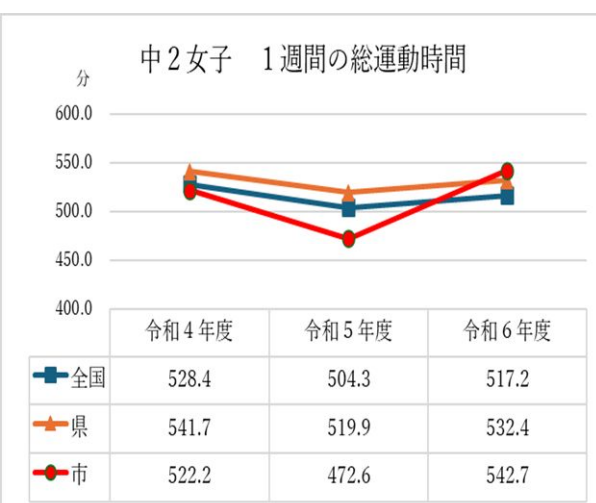
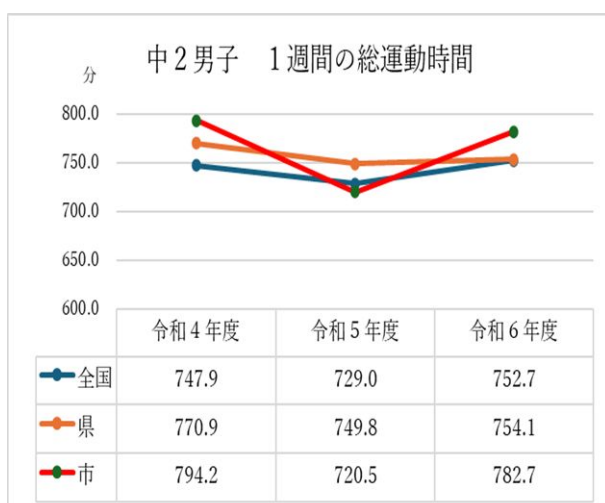
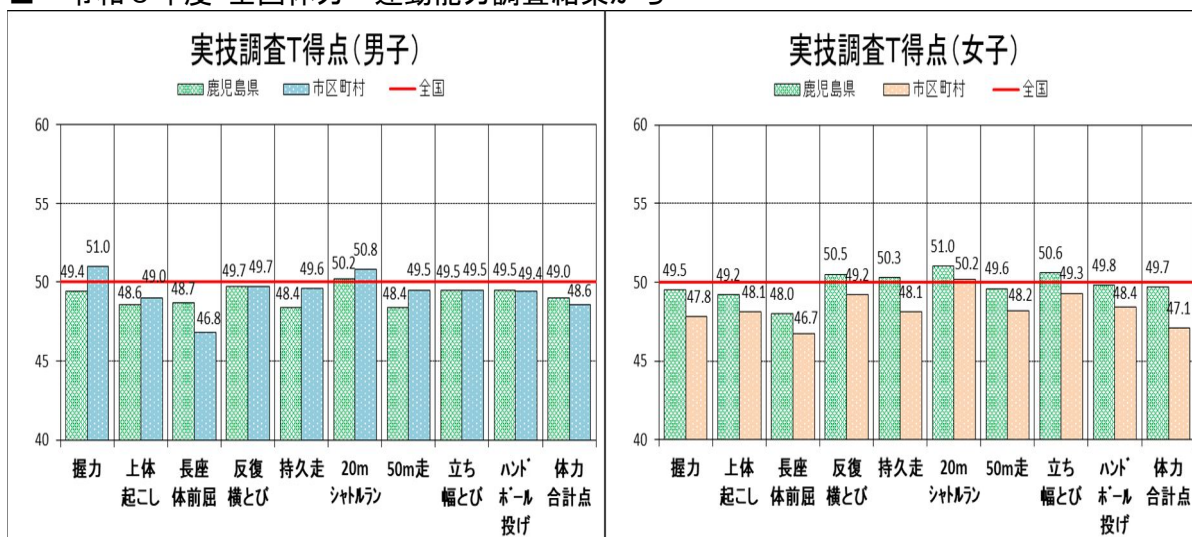
中学校においては、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを目指しています。

また、保健体育の授業の他にも、学校の運動部活動でスポーツに親しんでおり、学校における運動部活動は、体力・技術の向上ばかりではなく、人間関係の構築等に大きな役割を果たしています。

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、本市の中学校2年生の体力・運動能力は、男子については、県を上回る種目が多いですが、全国と比べると低く、女子については全国、県よりも低い傾向にあります。

また、運動時間については、男女ともに増加傾向にあります。今後も体育授業の充実や学校教育以外におけるスポーツ機会の提供に取り組み、子どもたちに、様々なスポーツにふれあう機会を与えることが必要です。

■ 令和6年度 全国体力・運動能力調査結果から



また、学校部活動は、スポーツ・文化芸術に興味・関心のある同好の生徒が体力や技能の向上を図る目的と、異年齢との交流の中で生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図り、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資する目的があり、学校と言う環境における生徒の自主的で多様な学びの場として教育的意義を有しています。

しかし、少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっており、学校や地域によっては存続が厳しい状況にあります。生徒の豊かなスポーツ・芸術文化活動を実現するため、学校と地域との連携・協働により持続可能な活動環境を整備する必要があり、スポーツ庁においても令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図ることとしています。

本市では、全ての中学校において、部活動の地域移行の実証事業を実施し、令和6年度は20の部活動の地域移行を実施しています。

■ 薩摩川内市中学校における運動部活動開設種目及び所属人数 (単位：人)

競技		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
陸上	男子	66	63	56	47	52	63	66	61	53
	女子	47	61	60	62	65	72	63	50	37
水泳	男子	58	51	45	53	51	53	54	47	52
	女子	27	26	17	19	22	21	16	10	12
バスケットボール	男子	117	101	92	103	91	112	104	108	71
	女子	66	73	77	88	86	81	70	77	61
サッカー	男子	165	162	147	131	119	116	115	120	119
	女子	13	15	14	12	14	11	13	9	8
軟式野球	男子	149	165	162	152	146	138	148	141	153
	女子	7	9	10	10	10	7	3	5	5
バレーボール	男子	65	51	36	42	52	71	64	51	60
	女子	196	181	165	128	127	139	125	95	92
ソフトテニス	男子	122	119	125	131	129	135	134	125	106
	女子	176	151	129	112	126	132	131	117	106
卓球	男子	107	113	132	127	112	96	91	104	96
	女子	101	127	126	123	94	95	83	100	72
ソフトボール	男子	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女子	25	19	13	18	18	21	12	13	14
柔道	男子	45	46	41	33	23	25	36	29	24
	女子	7	11	4	8	8	9	10	5	6
剣道	男子	39	44	36	34	30	33	33	29	32
	女子	36	12	19	17	19	22	24	20	22
ホッケー	男子	8	6	6	7	8	5	10	9	11
	女子	4	0	0	3	3	3	6	7	9
男女別計	男子	941	921	878	860	813	847	855	824	777
	女子	705	685	634	600	592	613	556	508	444
男女計		1,646	1,606	1,512	1,460	1,405	1,460	1,411	1,332	1,221
全生徒数比		60.9%	65.9%	58.4%	57.0%	55.2%	57.2%	54.9%	51.9%	46.5%

3 高齢者のスポーツ活動

(1) 健康・体づくり運動の活動

本市における高齢者人口は年々増加をたどり、令和6年4月には高齢化率が33.2%に達しています。令和22年度（2040年度）までは、高齢者人口が増加することが見込まれます。

本市は、高齢者クラブへ活動費の財源を一部補助するとともに、認定を受けた高齢者クラブや任意の高齢者団体がスポーツ施設を使用する場合、使用料を一部減免し、スポーツ活動の促進を図っています。

また、高齢者クラブで組織される連合会では、スポーツ大会や交流大会など、自主的な活動が行われるとともに、地域においてもグラウンド・ゴルフ等の親睦団体が数多く結成され、大会参加や交流などが行われています。

一方、高齢者の趣味は多様化しており、今後、高齢者がどのようなスポーツを求めているのかを考慮しながら、高齢者がスポーツを通じて地域社会に参加して交流を深め、生きがいを得られるよう、保健・福祉・教育など幅広い分野と連携しながらスポーツ活動を推進する必要があります。

■ 高齢者クラブ数及びクラブ員数 (単位：団体・人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
クラブ数	133	131	126	119	114	113	109	103	102
クラブ員数	6,632	6,491	6,190	5,588	5,125	4,931	4,560	4,232	4,273

■ 高齢者クラブ及び任意団体の減免認定団体数 (単位：団体)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
高齢者クラブ	85	96	103	98	98	95	96	93	91
任意団体	102	113	126	128	160	179	184	196	185

※高齢者クラブ：高齢者クラブのうち減免認定を受けているクラブ

※任意団体：会員数10名以上でうち60歳以上が3/4以上で高齢者の健康増進介護予防に資する活動を行っている団体

■ スポーツ大会及び交流大会への参加団体及び参加者数 (単位：団体・人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
ゴルフ大会	団体数	—	—	—	—	—	—	—	—
	参加者数	66	67	59	57	48	76	80	88
ゲートボール大会	団体数	17	17	15	9	6	5	6	7
	参加者数	85	102	85	50	30	25	30	35
グラウンド・ゴルフ大会	団体数	56	56	56	46	46	50	46	50
	参加者数	280	280	280	230	230	250	230	250
ペタンク大会	団体数	22	20	20	20	24	28	26	24
	参加者数	66	60	60	60	72	84	78	72

※本表は、市高齢者クラブ連合会主催のスポーツ交流大会を抜粋した。

※この他、県高齢者クラブ連合会主催や地域のスポーツ大会などに参加している。

(2) 介護予防運動の活動

鹿児島県では、健康かごしま21^{※1}（令和6年度～令和17年度）において、「個人の行動と健康状態の改善」、「社会環境の質の向上」、「ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり」を基本的な方向とした健康づくり施策を推進していく上での施策のひとつとして、「ロコモティブシンドローム^{※2}（運動器症候群）の発症予防・重症化予防の推進」を掲げました。

その背景として、令和4年度高齢者実態調査によると、要介護者等の介護が必要になった要因は、第1位「認知症」、2位「骨折・転倒」、3位「脳卒中」、4位「高齢による衰弱」となっており、第2位は運動機能に関連する疾患で、全体の20.7%を占めています。

運動機能に関連する疾患は、男性よりも女性の割合が高くなっています。運動器の働きが衰え、要介護の危険が高まるロコモティブシンドローム（運動器症候群）の発症・重症化の予防は、高齢化が進行する本県が健康寿命を延伸する上で、極めて重要な課題です。

本市の要介護（要支援）者の有病率をみると、高血圧、認知症、心不全、脳血管疾患の順に高くなっています。また、加齢に伴う運動機能に関連する疾患についても、発症予防・重症化予防の推進が重要です。

現在、介護予防を主体とした教室は、15事業所へ委託しています。一時コロナ禍で減少した利用者数は、広報活動への取組によって回復傾向にあります。

また、甕島区域では、地域の介護予防を推進するために、介護予防リーダーを養成し、住民主体の運動教室（「わっはっは教室」^{※3}）を実施しています。

今後は行政だけで事業を行うのではなく、地域住民と一緒に既存にあるものを活用しながら、事業を進めていく必要があります。

※1 健康かごしま21：本格的な高齢化が進むとともに生活習慣病の増加や、要介護高齢者の増加が懸念され、県民一人ひとりが健康で生き生きと生活できる「健やかな鹿児島」を創造するために策定された。

※2 ロコモティブシンドローム：身体を動かすのに必要な器官に障害がおり、自分で移動する能力が低下して要介護になる危険度が高い諸症状のこと。

※3 わっはっは教室：地域の介護予防事業リーダーが自治会などで行う、運動・栄養・口腔（こうくう）認知症予防の教室

■ 「わっはっは教室」の開催数及び参加者数

(単位：教室・回・人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
川内	教室数	19	19	19	17	15	14	-	-	-
	実施回数	264	259	269	208	145	131	-	-	-
	延参加者数	3,786	3,676	3,197	2,678	2,008	1,573	-	-	-
樋脇	教室数	3	3	3	3	3	3	-	-	-
	実施回数	93	107	77	99	84	89	-	-	-
	延参加者数	912	1,063	1,315	1,020	761	677	-	-	-
入来	教室数	1	1	1	1	1	1	-	-	-
	実施回数	11	12	12	10	7	8	-	-	-
	延参加者数	97	91	93	58	35	32	-	-	-
東郷	教室数	5	5	5	5	5	5	-	-	-
	実施回数	81	84	83	79	64	70	-	-	-
	延参加者数	990	994	1,000	899	719	713	-	-	-
祁答院	教室数	5	5	5	5	4	4	-	-	-
	実施回数	59	48	60	48	36	41	-	-	-
	延参加者数	618	474	708	493	358	326	-	-	-
里・上甗	教室数	8	12	12	11	11	11	11	11	11
	実施回数	80	78	122	146	151	278	188	210	213
	延参加者数	767	374	745	1,068	1,034	1,221	1,145	1,098	1,118
下甗	教室数	5	6	7	7	4	4	3	3	3
	実施回数	30	35	39	37	21	24	15	24	25
	延参加者数	158	447	409	344	231	302	173	233	252
合計	教室数	46	51	52	49	43	42	14	14	14
	実施回数	618	623	662	627	508	641	203	234	238
	延参加者数	7,328	7,119	7,467	6,560	5,146	4,844	1,318	1,331	1,370

※令和4年度からは甗島区域のみにおいて実施

4 障害者のスポーツ活動

障害のある人が、生涯を通じ、地域社会の主体として活動するためには、スポーツを通じた社会活動に参加し、生きがいを持って健やかに暮らすことができるような環境づくりに取り組む必要があります。

また、障害のある人がスポーツに親しみ、体力や競技力の向上を図る環境づくりに取り組むとともに、障害者スポーツを通じて障害のある人とない人との交流を促すなど、障害のある人に対する理解の啓発に努める必要があります。

本市では、障害者スポーツ施設「サン・アビリティーズ川内」を整備し、障害のある人のスポーツ及びレクリエーション活動への参加を促進するとともに、健康の保持増進を図っています。

また、障害者関係団体への支援を通じ、障害のある人がスポーツに親しむ機会を創出し、県障害者スポーツ大会等、各種スポーツ大会への参加支援を行っています。

今後も継続して、障害者がスポーツを行う場や機会の確保に取り組む必要があります。

■ サン・アビリティーズ川内の利用者数

(単位：人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
障害者(団体)利用者	2,956	3,011	2,095	2,753	1,186	1,557	1,364	1,551	1,627
一般利用者	21,926	21,397	21,493	19,486	14,513	13,454	15,104	17,745	16,825
合計	24,882	24,408	23,588	22,239	15,699	15,011	16,468	19,296	18,452

■ 県障害者スポーツ大会競技別参加者数

(単位：人)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
ソフトボール投げ	3	4	4	6	-	-	3	2	2
ジャベリックスロー	2	2	0	0	-	-	0	0	0
走り幅跳び	1	0	0	4	-	-	1	0	0
立ち幅跳び	3	3	3	3	-	-	1	3	2
フライングディスク アキュラシー	1	0	0	0	-	-	0	1	1
フライングディスク ディスタンス	0	1	0	9	-	-	1	2	3
背泳ぎ25m	1	1	0	0	-	-	0	1	1
平泳ぎ25m	0	0	0	0	-	-	0	0	0
バタフライ25m	0	0	0	1	-	-	0	1	1
自由形25m	1	1	0	1	-	-	0	0	0
アーチェリー	0	1	1	1	-	-	1	0	0
卓球	3	2	3	5	-	-	0	2	2
陸上競技	0	1	1	13	-	-	6	6	4
1500m走	0	0	1	0	-	-	0	1	0
ボウリング	0	0	0	8	-	-	0	2	0
合計	15	16	13	51	-	-	13	21	16

※令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため中止

5 地域のスポーツ

地域のスポーツは、子どもから高齢者までの地域住民が世代を超えて交流を深めることで、地域コミュニティの形成に役立ちます。

青少年はスポーツを通じて人格を形成し、高齢者は生きがいを持って元気に老後を送ることができ、障害のある人は依存的行動から人と積極的に関わりを持つ自立的行動へと自信・意欲が向上するなど多くの効果が期待できます。

そのため、地域の住民が主体となって取り組むことに主眼をおいて、スポーツ参加機会の拡充やスポーツ団体への支援など、スポーツに関わる環境づくりを推進しています。

(1) スポーツ参加機会の拡充

人は、健康への不安、ストレス発散、友人とのふれあいなど様々な理由でスポーツを始め、そして、スポーツを主体的に継続的に実践することで健康の保持増進を図りつつ、地域や人との絆ができ、地域に誇りと愛着を持てることとなります。

市民が気軽にスポーツに親しめるよう、各種事業を実施しています。

ウォーキングを代表とする健康志向型運動が広がる中、本市では、川内川を生かした「川内川河口マラソン・ウォーキング大会」を毎年実施しています。

市内外を問わず多くの参加者のもと、雄大な川内川のほつりを楽しくゆったりと走ったり歩いたりして、誰でも気軽に参加できる大会として開催しています。

■ 川内川河口マラソン・ウォーキング大会参加者数

(単位：人)

種目		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
ウォーキング	4km	353	409	459	361			174	206	262	
	6km	405	336	346	289			245	288	292	
	計	758	745	805	650			419	494	554	
マラソン	10km	男子	213	255	226	236			108	187	167
		女子	93	86	82	94			37	53	45
	河口一周	男子	217	250	217	240			211	252	305
		女子	24	23	31	35			28	38	30
	計	547	614	556	605			384	530	547	
合計		1,305	1,359	1,361	1,255			803	1,024	1,101	

※令和元年度19回大会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策により中止のため申込者数を掲載

※令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策により中止

また、地域の連帯を深め、生涯各期におけるスポーツを楽しむ機会として開催していた市民運動会を令和6年度からリニューアルし、子どもから高齢者まで市民の誰もが、気軽にスポーツを楽しむきっかけづくりと、運動能力・競技力の向上につなげることを目的に、自由参加（地域・家族・職場・グループ単位）で様々なスポーツを体験（競争）できるイベントとして、スポーツフェスタを開催しています。

生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に、いつでも・どこでも・だれでも、気軽に楽しみながら心身ともに健康で暮らせるよう、ライフステージに応じたスポーツ教室の実施に取り組んでいます。

スポーツ教室を通し、特に無関心層に対して運動の重要性の理解を深めることや、青壮年期からの運動習慣をいかに定着させるかが課題となっています。

■ 健康スポーツ教室参加者数

【川内スポーツクラブO1委託事業】

(延参加者数 単位：人)

教室名	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
スマート アカデミー	213	286	258	171	117				
大人のスポーツ教室 集え初心者	66	134	151	115	49				
キッズスポーツ塾	374	342	310	171	287	555	768	580	609
はじめての トレーニングジム						140	112	65	165
おうちde フィットネス						43	47	59	
親子deスポーツ									73
OTONA スポーツ教室									72
合計	653	762	719	457	453	738	927	704	919

【ひわきYOU遊スポーツクラブ委託事業】

(延参加者数 単位：人)

教室名	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
小学生水泳教室	575	655	658	587					
アクアビクス	144	141	190	143					
ピラティス教室						93	149	158	154
ヨガ教室					256	120	132	157	116
合計	719	796	848	730	256	213	281	315	270

(2) スポーツ団体への支援状況

本市はスポーツを通じて市民の体力の向上と地域社会に貢献する、特定非営利活動法人薩摩川内市スポーツ協会、地域スポーツ協会、薩摩川内市スポーツ少年団等の活動へ支援を行っています。

ア 特定非営利活動法人薩摩川内市スポーツ協会

平成17年度に設立された薩摩川内市体育協会（以下「市体育協会」という。）が今後益々変化、増大する市民のスポーツに対する需要に的確に対処し、諸事業を積極的に推進するためには、基本財源の確保による安定した事業運営を図る必要があることから、平成26年4月に特定非営利活動法人化された市体育協会は、令和元年度、28種目の競技スポーツ団体及び9つの地域体育協会並びに5つのスポーツ関係団体が加盟、令和4年4月に薩摩川内市スポーツ協会へ名称を変更し、補助金、会費、大会参加料等を財源に、体育・スポーツの健全な普及・振興と市民の体力と健康維持に寄与するとともに、加盟団体相互の協調と親睦を図る目的で、地域のスポーツ振興と競技力の向上に取り組んでいます。

主な活動としては、バレーボール、ソフトボール、綱引等の各種大会の開催、アスリート等による講演会の開催、県民スポーツ大会の支援、ホームページによるスポーツ活動の啓発、スポーツ合宿誘致及び支援などを行っています。

少子高齢化が進む中で、競技人口が減少してきている種目や継続的に競技レベルを維持するのが困難な種目、また十分に普及していない種目もあるなどの課題があります。

■ 令和6年度市スポーツ協会競技種目団体会員数

(単位：団体・人)

No.	競 技 名	団体数						会員数												
								一般		高校生		中学生		小学生		その他		合計		
		一般	高校生	中学生	小学生	その他	合計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計		
1	陸上競技協会	1					1	39	10									39	10	49
2	バレーボール協会	18					18	10	390						38	12		48	402	450
3	弓道連盟	1					1	35	20									35	20	55
4	卓球連盟	1					1	16	5									16	5	21
5	ソフトテニス連盟	12	2	6	1		21	92	25	40	25	91	61	12	11			235	122	357
6	バドミントン協会	10	3		2		15	50	50	45	45			10	10			105	105	210
7	柔道協会	3	3	5	3		14	16	11	20	8	22	6	28	7			86	32	118
8	剣道連盟	6					6	83	10									83	10	93
9	ソフトボール協会	21			5	1	27	320	17					70	10	30		420	27	447
10	軟式野球連盟	15		8	6	3	32	290				120	2	80	5	45		535	7	542
11	水泳協会	1					1	29	10									29	10	39
12	バスケットボール協会		8	7	16		31			150	100	150	100	200	200			500	400	900
13	サッカー協会	17	3	9	13	1	43	349	40	142	1	191	8	256	39	13		938	101	1,039
14	テニス連盟	4	2	1			7	50	30	18		3						71	30	101
15	ラグビーフットボール協会	2	1	1	1		5	40		11		7		28	4			86	4	90
16	ゲートボール協会	1					1	15	8									15	8	23
17	婦人スポーツクラブ	1					1		17									0	17	17
18	クレー射撃協会	1					1	9	3									9	3	12
19	レクリエーション協会	1					1	1	26									1	26	27
20	綱引連盟	7					7	18	11									18	11	29
21	ローイング協会	3	2				5	22	5	57	19							79	24	103
22	ボウリング協会	1					1	16	8	1		1	2		1			18	11	29
23	ゴルフ協会	1					1	45	5									45	5	50
24	グラウンドゴルフ協会	39					39	278	177									278	177	455
25	インテリアカ協会	7					7	20	39									20	39	59
26	トライアスロン協会	2					2	18	3									18	3	21
27	ホッケー協会	5	2	1	1		9	50	20	15	11	10	6	7	4			82	41	123
28	ウエイトリフティング協会	1	3	3			7	18		15	4	3	3					36	7	43
合計		182	29	41	48	5	305	1,929	940	514	213	598	188	691	291	25	3,845	1,657	5,502	

イ 地域スポーツ協会

本市には、地域住民の健康増進と地域コミュニティの醸成を目的に、地域でのスポーツ振興の推進役として、旧市町村単位に9地域（川内・樋脇・入来・東郷・祁答院・里・上甌・下甌・鹿島）で地域スポーツ協会が組織されています。

その活動内容は、地域スポーツ協会長のもとにスポーツ推進委員や体育関係の役員等を中心に、スポーツ活動の啓発・指導、地域住民の健康増進、体力の向上及び住民相互の親睦を目的に地域運動会や球技大会等、地域での特色を生かした活動を行っています。

なお、これらの活動に対しては、市スポーツ協会より活動補助金が交付されています。

地域運動会や球技大会のように実施期日が限定される単発的なスポーツ行事も必要ですが、生涯スポーツ社会の実現を考えると、一人でも多くの市民が参加できるレクリエーション的な活動内容を取り入れた事業を、定期的・継続的に展開することが望まれます。

また、役員の高齢化や人口減少に伴う競技参加者の減少、固定化などの課題もあります。

ウ 薩摩川内市スポーツ少年団

平成17年度に設立された薩摩川内市スポーツ少年団（以下「市スポーツ少年団」という。）は、令和6年度、単位団数30団（団員数402人）で組織されており、登録料（県・市）及び補助金等を財源に、心身ともに健康で豊かな人間性をそなえた青少年の育成を図る目的で、各種スポーツ大会や交流事業等の開催、指導者・育成母集団の指導力養成など少年スポーツの振興に努めています。

主な活動としては、リーダー研修会、交歓交流大会、富山県魚津市スポーツ少年団との交流事業などを行っています。

少子化の影響もあって登録団数、指導者数、団員数が減少しており、団活動を継続するために団員の確保や指導者の育成などの課題があります。

■ 市スポーツ少年団競技別登録者数 （単位：団・人）

区分		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
剣道	団数	10	10	10	10	10	10	10	10	8
	指導者数	32	34	37	38	31	25	31	30	25
	団員数	135	130	135	124	111	116	110	109	110
サッカー	団数	8	8	8	6	5	3	4	3	1
	指導者数	26	25	25	19	16	8	12	8	2
	団員数	120	89	87	92	65	51	46	26	19
バレーボール	団数	13	13	14	10	9	9	9	10	8
	指導者数	66	68	74	58	51	28	44	43	32
	団員数	182	170	164	108	109	107	108	128	116
ソフトボール	団数	11	10	9	9	8	8	8	8	7
	指導者数	65	68	57	58	49	30	47	46	41
	団員数	150	153	155	145	123	112	108	100	93
軟式野球	団数	2	2	2	2	2	2	2	1	1
	指導者数	5	6	7	7	7	5	6	3	3
	団員数	29	34	25	20	30	25	21	15	9
空手	団数	3	3	3	3	1	3	2	3	2
	指導者数	10	8	8	9	3	6	5	8	6
	団員数	61	62	47	41	23	40	28	32	22
ミニバスケット	団数	1	1	1	1	1	1	1	1	0
	指導者数	7	6	4	3	3	2	3	5	0
	団員数	25	23	20	10	13	11	17	23	0
水泳	団数	1	1	1	1	1	1	1	1	0
	指導者数	3	3	3	3	3	2	3	3	0
	団員数	12	7	6	7	10	11	8	6	0
ホッケー	団数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	指導者数	6	5	4	7	5	2	3	3	3
	団員数	9	7	10	9	8	14	12	16	11
柔道	団数	1	1	1	1	0	1	1	1	1
	指導者数	4	4	4	4	0	2	2	2	2
	団員数	20	11	13	13	0	9	11	7	5
複合	団数	3	3	3	3	2	2	1	1	1
	指導者数	13	13	13	14	9	6	5	3	3
	団員数	57	63	70	87	54	24	19	17	17
合計	団数	54	53	53	47	40	41	40	40	30
	指導者数	237	240	236	220	177	116	161	154	117
	団員数	800	749	732	656	546	520	488	479	402

(3) スポーツ推進委員による地域スポーツ活動状況

本市では、スポーツ推進委員87人が、地域住民のスポーツ振興のために活動しています。

生涯スポーツに対する関心の高まりや、健康づくりとしてのスポーツの普及をはじめとし、地域のスポーツ大会への派遣依頼に応えるなど（主な活動はルールの説明や審判活動、実技指導など）、子どもから高齢者まで多くの方々にスポーツの楽しさを知ってもらえるよう、自主的にスポーツに取り組む活動を行っています。

平成23年にスポーツ基本法が施行され、「体育指導委員」は「スポーツ推進委員」と名称が変更になり、また、スポーツ推進委員の役割として「スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行う」ことが明記されました。

これからも本市においては、性別や年齢構成を配慮しながら、スポーツ指導者の資格を有し、熱意と能力があり、効果的に連絡調整ができる人材の確保に努めることが必要です。

■ 令和6年度地域別スポーツ推進委員の構成

(単位：人)

	川内	樋脇	入来	東郷	祁答院	里	上甌	下甌	鹿島	合計
男	17	4	8	6	6	5	5	6	3	60
女	11	6	2	4	2	0	0	2	0	27
計	28	10	10	10	8	5	5	8	3	87
女性率	39%	60%	20%	40%	25%	0%	0%	25%	0%	31%

(4) 総合型地域スポーツクラブの活動状況

総合型地域スポーツクラブとは、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴をもち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

鹿児島県内には令和6年4月現在で、16市13町1村に58クラブが設立されています。

平成13年6月に、本市で最初の総合型地域スポーツクラブ「川内スポーツクラブ01」が、サンアリーナせんだいを拠点として設立され、平成16年3月には、樋脇体育館を拠点として「ひわきYOU遊スポーツクラブ」が設立されています。

市民のニーズに応じたスポーツ教室やサークル活動を展開し、気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりや会員の確保などの課題があります。

■ 総合型地域スポーツクラブ会員数の推移（年度末）

【川内スポーツクラブ01】

（単位：人）

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
未就学児	21	19	15	17	9	3	3	25	26
子ども	366	311	300	317	289	230	202	315	411
大人	654	564	590	557	457	396	365	432	468
合計	1,041	894	905	891	755	629	570	772	905

【ひわきYOU遊スポーツクラブ】

（単位：人）

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
未就学児	0	0	0	0	0	2	2	2	8
子ども	34	31	39	45	52	34	25	28	34
大人	85	93	93	105	111	124	118	101	108
合計	119	124	132	150	163	160	145	131	150

■ 総合型地域スポーツクラブの概要

団体名	川内スポーツクラブ01	ひわきYOU遊スポーツクラブ
設立年月日	平成13年6月10日	平成16年3月14日
スタッフ数	事務局職員 11名 臨時職員 19名	事務局員 1名
自主財源	会員会費、受託事業	会員会費、受託事業
サークル数	28種目 49サークル	6種目 2サークル 4教室
活動内容	バドミントン、ラージボール卓球、ソフトテニス、ソフトバレー、フットサル、グラウンド・ゴルフ、インディアカ、バスケット、陸上、ヒップホップ、キッドビクス、テニス、スタジオフィットネス、シニア健康づくり教室等	ゴルフ、エアロビクス、バドミントン、グラウンド・ゴルフ、ヒップホップ、体操
将来展望	薩摩川内市の健康・スポーツ・体力づくりの拠点となる	地域に密着したクラブづくりを進め、健康づくりはもとより、地域のコミュニティの場とする
課題	人材育成、会員の帰属意識	自主財源の確保、参加人員の拡大

6 競技スポーツ

競技スポーツは、競技者の活躍の場であるとともに、その活躍は私たちに夢と感動を与え、日々の生活に活力を生み出します。

競技スポーツの競技力を向上させることは、競技者自らの能力と技術を高めるとともに、市民のスポーツへの関心を高め、スポーツをより身近なものとして競技人口の拡大につながり、本市のスポーツ振興に重要な役割を担っています。

本市は、市スポーツ協会・市スポーツ少年団等関係団体と連携を図りながら、スポーツ振興のための事業を展開し、競技スポーツ人口の拡大及び競技力向上に努めています。

なお、少子・高齢化が進む環境において、競技スポーツ人口の減少が懸念されるなか、ジュニア時代の競技スポーツ人口の確保、指導者の育成及び指導体制の確立を図ることが課題となっています。

(1) スポーツ大会の開催状況

市スポーツ協会の各種競技団体において、競技力向上を図る目的で、また、薩摩川内スポーツコミッション^{※1}と連携し、各種スポーツ大会の開催及び全国大会・九州大会等の開催の誘致を図っています。

(2) 大会出場者への支援状況

全国大会・九州大会等に出場する選手や団体を支援する事業として、大会出場に伴う旅費及び宿泊費の一部を、スポーツ振興基金補助金^{※2}の派遣助成金として支援しています。

■ スポーツ振興基金補助金助成件数

(単位：件)

助成項目		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
派遣助成	全国大会	43	48	59	52	11	36	48	65	65
	九州大会	81	89	96	73	19	39	96	84	85
	生涯スポーツ大会	0	3	8	2	0	0	14	18	15
	国際大会	1	4	3	4	0	0	3	3	2
	小計	125	144	166	131	30	75	161	170	167
その他の助成		1	0	1	0	0	2			
合計		126	144	167	131	30	77	161	170	167

※1 薩摩川内スポーツコミッション：スポーツの競技力向上だけでなく、スポーツキャンプ・合宿やスポーツイベントを通して交流人口の拡大を目的に官民の代表者等で構成された団体組織のこと。

※2 スポーツ振興基金補助金：市内のスポーツ・レクリエーション活動を行う個人または団体を助成し、もって市内のスポーツ・レクリエーションの普及振興及び競技力の向上に寄与することを目的とする。

(3) スポーツ合宿誘致の状況

スポーツの振興、スポーツ施設の利用促進、併せて交流人口の拡大による地域の活性化を図ることを目的として、薩摩川内スポーツコミッションを構成する関係団体やスポーツ大使等と連携し、スポーツ合宿等誘致事業を展開しています。

また、本市でスポーツ合宿を実施するプロ・全日本・実業団等による公開練習・スポーツ教室を実施しており、競技スポーツの普及・発展、スポーツ人口の拡大及び競技力の向上などに大きく貢献しています。

■ スポーツ合宿状況

(単位：団体・人)

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
団体数	85	92	78	48	34	28	66	83	83
人数	2,577	2,967	2,347	1,251	709	560	1,723	2,140	2,071
延人数	12,900	14,646	13,131	6,831	3,297	3,008	10,187	12,686	12,397

■ 令和6年度公開練習・スポーツ教室実施状況

団体名	実施内容
バレーボール女子日本代表チーム	公開練習
バレーボール男子ブラジル代表チーム	公開練習
バレーボール男子日本代表Bチーム	公開練習
ヴィクトリーナ姫路（バレーボール）	公開練習・スポーツ教室
肥後銀行女子駅伝部	公開練習
韓国プロ野球チームSSGランダース	公開練習
バレーボール男子U19日本代表チーム	公開練習
韓国延世大学硬式野球部	公開練習・スポーツ教室
パナソニック野球部	公開練習

■ 薩摩川内スポーツ大使（敬称略）

氏名	任期	出身地	備考
まなべ まさよし 眞鍋 政義	H25. 6. 24～	兵庫県 姫路市	・元バレーボール女子日本代表チーム監督 ・令和4年から、バレーボール女子日本代表 チーム監督に復帰
うえた たつや 植田 辰哉	H25. 7. 10～	香川県 東かがわ市	・元バレーボール男子日本代表チーム監督 ・大阪商業大学 教授
いけはた ひろし 池畑 大	H25. 8. 27～	薩摩川内市 入来町	・元ウエイトリフティングオリンピック選手 ・ウエイトリフティング指導者
きさぬき ひろし 木佐貫 洋	H25. 12. 26～	薩摩川内市 永利町	・元プロ野球選手 ・読売ジャイアンツの球団フロント
こだま たいすけ 児玉 泰介	H26. 1. 22～	薩摩川内市 東郷町	・元マラソン選手 ・愛知製鋼陸上競技部前監督 ・愛知製鋼陸上競技部アドバイザー
すぎうち としや 杉内 俊哉	H26. 2. 7～	福岡県 大野城市	・元プロ野球選手 ・読売ジャイアンツの投手コーチ
おおた あきこ 大田 昭子	R1. 9. 1～	薩摩川内市 樋脇町	・元ホッケー女子日本代表選手
しん かずみ 新 和己	R2. 10. 9～	薩摩川内市 水引町	・元兵庫県警柔道主席師範 ・芦屋大学客員教授柔道師範
よしだ ひでひこ 吉田 秀彦	R2. 10. 9～	愛知県 大府市	・バルセロナオリンピック柔道金メダリスト ・パーク24柔道部総監督
いのうえ よしひろ 井上 義浩	R4. 6. 29～	愛知県 名古屋市	・元バレーボール男子日本代表チーム マネージャー ・朝日大学入試広報課事務主幹

7 スポーツ施設の状況

(1) 公共スポーツ施設の状況

本市は、近隣地域に先駆けて県内でも有数の大規模で機能性の高い総合運動公園の整備に取り組み、現在、各種競技スポーツ、スポーツイベントや市民の日常的なスポーツ活動に利用するための公共スポーツ施設が整備されています。

また、多種多様なスポーツ施設が全域に設置され、当面の使用においては支障なく利用できていますが、老朽化は否めない状況にあり、今後の施設の維持管理はますます重要なものとなります。

しかし、今日の厳しい財政状況の中で建替え等の大規模な対応は困難なことから、計画的な維持補修や予防保全により施設の維持を図っていかねばなりません。そこで、令和元年度において、総合運動公園の修繕計画を策定したところであり、計画に沿って修繕を進める必要があります。また、その他の施設については、今後、修繕計画を策定し、計画的な修繕を行う必要があります。

なお、修繕計画を策定するに当たって、本市の人口減少に伴う使用者の減少や多額の維持・管理経費の削減を踏まえ、薩摩川内市公共施設再配置計画を基本として施設の整理・統合について検討する必要があります。

また、近年ではスポーツの多様化やルールの改正などから、スポーツ施設の一部改修が必要となり、競技用具の性能が利用者の要求に対応できていないなどの課題もあります。

■ スポーツ施設の利用状況 (上段は利用件数、下段は利用者数)

施設名		年度				
		H28年度	R4年度	R5年度	R6年度	
川内地域	総合運動公園	アリーナ	5,029	3,320	3,549	3,924
			140,636	117,423	144,054	125,832
		武道場	159	203	213	205
			16,287	14,198	15,743	14,307
		弓道場	12	25	54	34
			6,913	4,354	6,223	6,042
		トレーニング室				
			50,018	31,554	33,210	38,983
		会議室	356	383	357	396
			13,595	11,090	9,809	13,511
		テニスコート	2,450	2,071	1,724	2,186
			30,578	26,145	23,032	25,781
		多目的運動広場	452	404	393	409
		57,066	43,432	49,566	43,764	
	野球場	243	164	268	178	
		15,323	10,726	14,883	12,388	
	投球打撃練習場	132	75	101	90	
		2,522	1,762	2,318	2,226	
	陸上競技場	1,797	2,299	2,341	2,352	
	34,702	25,200	27,968	23,421		
サンドーム	1,629	1,614	1,752	1,783		
	28,731	26,681	30,901	31,014		
御陵下公園	野球場	544	446	442	436	
		18,676	11,492	11,507	12,591	
	テニスコート	380	262	352	321	
		5,498	2,971	3,568	3,446	
	996	1,037	1,129	1,137		
	21,420	14,518	14,633	16,933		
川内プール						
	5,714	4,669	6,161	6,248		
宮里体育館		0	324	324		
	3,392	0	3,694	3,694		
港体育館		0	128	77		
	1,728	0	665	849		
冷水体育館		0	587	479		
	2,775	0	4,523	4,564		
スポーツ交流研修センター	841	731	1,057	1,136		
	4,157	4,361	5,354	5,189		
川内川交流センター		761	220	759		
		11,622	13,001	9,471		
小計	15,020	13,795	14,991	16,226		
	459,731	362,198	420,813	400,254		
榑脇地域	榑脇総合運動場	体育館	1,154	962	987	1,192
			26,745	16,818	27,156	33,070
		グラウンド	94	63	67	79
			7,785	3,359	3,062	2,773
	弓道場	2	0	0	2	
		180	0	0	3	
	榑脇屋外人工芝競技場	506	562	531	453	
		8,383	10,127	9,110	7,769	
	榑脇サンヘルスパーク					
		22,977	17,001	24,270	25,384	
	榑脇B&G海洋センター					
		8,210	3,660	3,744	3,214	
榑脇グラウンド・ゴルフ場						
		36,767	35,186	34,851		
小計	1,756	1,587	1,585	1,726		
	74,280	87,732	102,528	107,064		

施設名		年度			
		H28年度	R4年度	R5年度	R6年度
入来総合運動場	グラウンド	312	295	420	427
		12,592	10,339	18,410	15,624
	体育館	963	664	886	781
		9,517	8,416	20,569	8,585
	トレーニング室	1,135	131	218	204
		1,600	215	1,036	311
	ウエイリフティング室		1,150	815	396
			1,365	2,109	1,171
	武道館	163	144	202	128
		1,920	1,513	2,994	1,201
	弓道場	28	170	164	202
		119	238	790	350
	テニスコート	26	23	55	55
		92	65	195	197
ゲートボール場	20	2	2	3	
	377	8	52	64	
小計	2,647	2,579	2,762	2,196	
	26,217	22,159	46,155	27,503	
東郷地域	グラウンド	405	317	311	267
		31,910	31,511	30,938	25,778
	体育館	1,286	1,629	1,808	1,747
		21,362	25,727	34,339	33,316
	ゲートボール場				
		971	4,738	4,007	3,547
運動広場					
	124	0	0	0	
小計	1,691	1,946	2,119	2,014	
	54,367	61,976	69,284	62,641	
榑脇地域	榑脇院グラウンド	134	141	138	118
		3,480	4,737	4,802	4,488
	榑脇院体育館	450	263	327	636
		7,606	4,386	5,355	11,298
小計	584	404	465	754	
	11,086	9,123	10,157	15,786	
里地域	里プール				
		2,062	803	888	889
	里柔道会館	152	201	173	263
		1,728	1,126	907	1,149
小計	152	201	173	263	
	3,790	1,929	1,795	2,038	
上甌地域	上甌グラウンド	31	2	4	3
		2,752	1,325	1,150	667
	上甌B&G海洋センター				
	1,228	991	594	514	
小計	31	2	4	3	
	3,980	2,316	1,744	1,181	
鹿島地域	鹿島コミュニティプール				
		805	268	314	394
	小計				
	805	268	314	394	
合計	21,881	20,514	22,099	23,182	
	634,256	547,701	652,790	616,861	

■ 屋外運動場照明施設の利用状況 (上段は利用件数、下段は利用者数)

地域	施設名	年度			
		H28年度	R4年度	R5年度	R6年度
川内地域	亀山小	192	112	113	141
		4,577	2,728	2,081	2,705
	可愛小	116	112	115	120
		2,730	2,465	2,469	2,698
	川内小	122	74	74	89
		2,633	1,321	1,433	2,050
	育英小	155	154	137	143
		5,472	4,240	5,185	5,465
	永利小	160	120	107	167
		5,085	2,595	2,700	4,194
	高来小	198	187	168	182
		3,786	2,574	2,554	3,235
	川内中央中	63	7	1	1
		1,068	202	12	12
	平成中	35	10	25	28
		1,224	105	340	316
	平佐東運動広場	51	11	0	1
		677	127	0	35
	城上小	58	33	33	6
2,060		696	1,146	819	
水引中	17	7	5	4	
	640	170	75	65	
小計	1,167	827	778	882	
	29,952	17,223	17,995	21,594	

地域	施設名	年度			
		H28年度	R4年度	R5年度	R6年度
樋脇地域	市比野小	21	0	0	0
		314	0	0	0
	小計	21	0	0	0
		314	0	0	0
東郷地域	東郷学園		33	61	89
			707	1,594	2,052
	小計	0	33	61	89
		0	707	1,594	2,052
祁答院地域	祁答院中	15	22	26	13
		450	427	408	287
	小計	15	22	26	13
		450	427	408	287
里地域	里中	80	0	84	90
		1,873	0	1,340	1,359
	小計	80	0	84	90
		1,873	0	1,340	1,359
上甌地域	上甌中	39	3	2	0
		712	45	30	0
	小計	39	3	2	0
		712	45	30	0
下甌地域	海陽中	0	0	0	0
		0	0	0	0
	海星中	15	0	8	0
		885	0	172	0
	小計	15	0	8	0
		885	0	172	0
鹿島地域	鹿島中	0	0	0	0
		0	0	0	0
	小計	0	0	0	0
		0	0	0	0
合計	1,337	885	959	1,074	
	34,186	18,402	21,539	25,292	

(2) 学校体育施設の状況

地域のスポーツ活動及び児童の安全な遊び場の確保のために、学校教育に支障のない範囲で、市内の小・中・義務教育学校の体育施設を学校体育施設開放事業として、市民に開放しています。

現在の開放状況は、小学校23校、中学校10校、義務教育学校1校の体育館・運動場等の開放を実施しており、開放事業を円滑に行うために学校体育施設開放運営委員会を設置し、各小・中・義務教育学校の協力を得て地域住民やスポーツ団体等が利用しています。

学校体育施設は、学校教育を目的とした施設であります。地域にとっては身近にあるスポーツ施設でありますので、地域のニーズにあった施設の利用を検討していくことが必要です。

■ 学校開放体育施設の利用状況（上段は利用件数、下段は利用者数）

地域	学校名	H28年度	R4年度	R5年度	R6年度	地域	学校名	H28年度	R4年度	R5年度	R6年度	
川内	亀山小	820	568	546	577	入来	入来小	269	153	48	169	
		7,966	13,726	11,287	10,909			2,062	1,971	404	1,400	
	可愛小	547	661	977	767		副田小	78	0	1	0	
		335	12,548	17,077	13,937			1,388	0	13	0	
	川内小	545	490	408	442		旧朝陽小	43				
		7,641	9,382	7,658	7,861			843				
	隈之城小	845	759	849	654		旧大馬越小	14				
		14,173	11,143	12,391	9,893			100				
	平佐西小	743	660	564	636		入来中	33	0	61	126	
		169	1,055	2,163	10,167			707	0	918	1,547	
	平佐東小	102	103	165	87		東郷	旧東郷小	519			
		940	1,037	1,352	682				9,640			
	水引小	150	124	144	161			旧東郷中	83			
		2,663	2,237	2,803	2,885		1,606					
	永利小	632	702	619	452		東郷学園		649	912	508	
		14,952	14,066	14,515	9,611				9,828	13,864	9,868	
	峰山小	62	36	70	49	祁答院	黒木小	368	335	324	53	
		301	358	602	409			4,821	4,076	4,639	366	
	八幡小	153	101	78	74		大栗小 ^(R5まで) 祁答院小 ^(R6から)	286	359	316	149	
		2,815	1,029	1,023	1,134			4,591	4,405	4,147	3,178	
	育英小	707	461	555	697		上手小	119	33	41	118	
		9,533	7,994	12,267	12,585			3,521	385	511	1,094	
	高来小	301	507	433	440		蘭牟田小	168	108	93	64	
		4,749	6,037	5,460	6,084	1,222		508	595	527		
	城上小	234	103	108	70	祁答院中	39	28	1	0		
		5,280	1,605	2,404	1,042		1,260	1,070	10	0		
	旧陽成小	35				里	里小	185	109	196	220	
		190						4,269	773	1,515	1,839	
	川内北中	58	49	81	239	里中	179	165	233	182		
		1,092	980	1,542	5,179		6,550	2,316	4,033	2,612		
	川内中央中	396	167	146	171	上甌	中津小	113	118	160	91	
		4,004	1,531	1,077	1,378			2,034	818	966	709	
川内南中	98	12	70	166	上甌中		106	95	112	74		
	1,355	69	717	2,425		1,001	953	1,214	507			
水引中	68	51	54	53	下甌	手打小	306	213	187	127		
	1,546	595	492	442			3,266	1,715	1,353	1,142		
旧高江中	167					長浜小	109	34	70	65		
	2,100						2,156	418	1,068	956		
平成中	104	73	140	86		海陽中	26	129	131	2		
	1,353	508	2,092	1,349			916	612	615	6		
樋脇	樋脇小	254	257	248		133	海星中	37	36	3	21	
		3,922	3,438	4,114	1,602	403		549	37	246		
	市比野小	437	314	262	242	鹿島	鹿島小	299	32	102	168	
		6,520	4,142	3,354	2,948			3,530	310	1,154	1,882	
樋脇中	220	152	172	186	鹿島中		0	41	1	0		
	2,982	823	972	1,155			0	101	15	0		
合 計		11,057	8,959	9,680	8,519	合 計		152,467	124,041	142,423	131,556	

(3) スポーツ施設の管理運営

本市のスポーツ施設の大部分は、施設のより効率的な管理や利用者に対するサービスの一層の向上を目指して、指定管理者制度を導入しています。

施設の使用に関しては、スポーツ施設の利用状況一覧表にあるように多くの方々に利用されていますが、利用者の固定化も見受けられるため、利用案内などの広報充実を図り、施設の定期的な情報発信など新規の利用者の拡大を目指していく必要があります。

なお、運動・スポーツ活動を推進する上で、様々な事故も懸念されることから、事故を未然に防ぐための定期的な施設・整備の点検をはじめ、危険な箇所への立入制限や破損箇所等の早期修繕に努める必要があります。

しかし、不幸にして事故が発生した場合を想定し、AEDの設置など応急処置ができる体制や緊急連絡体制を整えるとともに、保険・補償制度に加入し、万一が事故が起こった場合にも対応できる体制を整える必要があります。

また、運動・スポーツの主体となる個人に対しても、主体的に対応できるようスポーツ安全保険等、個人保険への加入意識を促すことが大切です。

■ スポーツ施設におけるAEDの設置状況（令和7年1月現在）

施設名		設置台数	施設名		設置台数					
川内地域	総合運動公園	アリーナ	1	入来地域	入来総合運動場	グラウンド	1			
		武道場	1			体育館				
		弓道場				トレーニング室				
		トレーニング室				ウエイトリフティング室				
		会議室				武道館				
		テニスコート	1			弓道場				
		多目的運動広場				テニスコート				
		野球場	1			ゲートボール場				
		投球打撃練習場				入来計		1		
		陸上競技場	1			東郷地域		東郷総合運動場	グラウンド	1
		サンドーム	1	体育館						
	野球場	1	ゲートボール場							
	御陵下公園		テニスコート		東郷計	1	運動広場			
			運動場会館	1						
			川内プール	1			祁答院地域	祁答院グラウンド	1	祁答院体育館
			宮里体育館	1						祁答院計
		港体育館	1	里地域	里プール	1				里柔道会館
		冷水体育館	1				里計	1		
		川内川交流センター	1				上甕地域	上甕グラウンド	1	上甕B&G海洋センター
	スポーツ交流研修センター	2	江石体育館							
川内計	15	上甕計	1							
樋脇地域	樋脇総合運動場	体育館	1	鹿島地域	鹿島コミュニティプール	1				
		グラウンド					鹿島計	1		
		弓道場		薩摩川内市合計	24					
		樋脇屋外人工芝競技場								
	樋脇サンヘルスパーク									
	樋脇B&G海洋センター	1								
	樋脇グラウンド・ゴルフ場	1								
樋脇計	3									

第4章 計画の基本的考え方

第1節 基本理念（目指す姿）

市民が気軽にスポーツを楽しむ環境が整い、 日常的にスポーツを行っている

本市のスポーツの現況と課題及び新しい生活様式におけるスポーツの在り方を踏まえ、すべての市民が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」、生涯にわたりスポーツ・レクリエーションを気軽に楽しみながら心身ともに健康に暮らせる環境づくりを推進し、スポーツを通して活力ある地域づくりと市民の一体感の醸成、子どもたちの健全育成を図っていくことを本市におけるスポーツ推進の基本理念とします。

第2節 基本方針

1 交流人口の拡大と地域の活性化

スポーツ合宿誘致やスポーツイベントの開催等を通して、スポーツツーリズム^{※1}を展開し、交流人口の拡大による地域の活性化を図ります。

2 生涯スポーツの環境づくり

健康の維持増進や体力づくりを目的に、市民が「いつでも」「どこでも」「だれでも」気軽にスポーツを楽しむことができるよう、各種健康スポーツ教室の開催や総合型地域スポーツクラブの活動を支援します。

地区コミュニティ協議会やスポーツ推進委員と連携し、地域のスポーツ・レクリエーション活動などの環境づくりを促進します。

3 競技スポーツの振興

競技人口の底辺拡大と競技力の向上を図るため、市スポーツ協会などの関係団体と連携して、指導者の育成と指導体制の充実に努めます。

特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」や東京オリンピック事前キャンプ等を通じたスポーツレガシー^{※2}を継承し、更にスポーツ競技者の人口の拡大や競技力の向上に繋げることにより競技スポーツの振興を図ります。

4 スポーツ環境の充実

スポーツ活動の要求に応えるスポーツ施設の整備を行い、スポーツ施設情報のネットワーク化と利用システムを構築することにより、施設の整備充実と有効活用を図ります。

※1 スポーツツーリズム：スポーツ体験や観戦を楽しみながら各地域の魅力を満喫すること。

※2 スポーツレガシー：スポーツを体験・観戦することで、スポーツ人口の拡大や健康的なライフスタイルの確立につながること。

第3節 施策の体系

【基本理念】

市民が気軽にスポーツを楽しむ環境が整い、
日常的にスポーツを行っている

【基本方針】

交流人口の拡大と
地域の活性化

【基本施策】

- 1 スポーツツーリズムによる地域活性化
- 2 スポーツ情報の発信
- 3 ボランティアの育成

生涯スポーツの
環境づくり

- 1 スポーツ機会の提供
- 2 生涯にわたるスポーツライフの支援
- 3 生涯スポーツ推進体制の充実
- 4 スポーツ推進委員による地域スポーツの推進

競技スポーツの振興

- 1 競技スポーツ推進体制の充実
- 2 スポーツ選手の育成及び指導者の養成
- 3 大会出場者への支援
- 4 レガシー事業による振興

スポーツ環境の充実

- 1 スポーツ施設の充実及び利用促進
- 2 学校体育施設の利用促進

第5章 基本施策

基本方針1 交流人口の拡大と地域の活性化

目 標

スポーツ合宿誘致やスポーツイベント、スポーツツーリズム事業を「薩摩川内スポーツコミッション」と連携しながら展開し、交流人口の拡大と地域の活性化を図ります。

指 標

スポーツ合宿団体数

令和6年度 83団体 ⇒ 令和11年度 100団体

1 スポーツツーリズムによる地域活性化

スポーツ大会やプロスポーツチームのキャンプ、スポーツ合宿の受け入れは、県内外・国内外からの観光客誘致や地域の知名度アップ等の効果が期待されます。

薩摩川内スポーツコミッションを構成する関係団体やスポーツ大使等と連携し、スポーツイベントの開催やスポーツ合宿誘致を通じて交流人口の拡大による地域の活性化を図ります。

(1) スポーツイベントによる地域活性化

- ① 市スポーツ協会の各種目競技団体が誘致する全国大会・九州大会を支援します。
- ② 薩摩川内スポーツコミッション及び関係団体と連携を図り、トップアスリート等によるスポーツイベント事業を実施します。

(2) スポーツ合宿による地域活性化

- ① ホテル旅館組合等と連携し、県が主催するスポーツ合宿セミナーへの参加により、スポーツ合宿誘致を実施します。
- ② 薩摩川内スポーツコミッションを構成する関係団体と連携し、実業団等のスポーツ合宿誘致を実施します。
- ③ 市スポーツ大使と連携し、実業団等のスポーツ合宿誘致を実施します。
- ④ スポーツ合宿を推進するとともに、本市の経済の活性化を図るため、スポーツ合宿団体に市内合宿施設利用報奨金を交付します。
- ⑤ スポーツ合宿団体に特産品等の激励品を贈呈し、継続的なスポーツ合宿につなげるとともに特産品をPRします。

2 スポーツ情報の発信

市報やホームページ、薩摩川内スポーツコミッションのSNS等を有効に活用し、スポーツ施設・スポーツイベント・スポーツ教室等についての情報を広く発信します。

3 ボランティアの育成

スポーツには、「する」、「みる」、「ささえる」という楽しみ方や関わり方があります。

スポーツを「する」ことで、みんなが楽しさや喜びを得られ、これがスポーツの価値の中心となります。スポーツを「みる」ことで、極限の結果を追求するアスリートの姿に感動し、人生に活力が得られます。スポーツを「ささえる」ことで、多くの人々が交わり共感し合うことにより、社会の絆が強くなっていきます。

スポーツ大会やスポーツ合宿では、おもてなしの心で「ささえる」ボランティアやサポーターが不可欠であり、その人材の育成が重要です。

スポーツを「ささえる」という観点から、市民の誰もが、自分に適した様々な形でスポーツに関わり、スポーツを楽しむことができるよう、スポーツイベントのボランティアを募集します。

基本方針2 生涯スポーツの環境づくり

目 標

スポーツは、健康の保持増進、生活習慣病の予防、心の健康に寄与するものです。子どもの運動不足や、それに伴う体力・運動能力の低下、また、高齢化の進展などの傾向を踏まえ、生涯を通じて、健康の維持増進や体力づくりを目的に、「いつでも」「どこでも」「だれでも」、市民が気軽にスポーツにアクセスすることができるようライフステージに応じたスポーツ環境を推進します。

指 標

総合型地域スポーツクラブの会員数

令和6年度 1,055人 ⇒ 令和11年度 1,200人

1 スポーツ機会の提供

市民の誰もが気軽にスポーツを楽しめるよう、各スポーツ団体と連携を図り、スポーツイベントやスポーツ教室の開催、支援に取り組みます。

- ① 地域の連帯を深め、生涯各期におけるスポーツを楽しむ機会として、市民参加型のスポーツイベントを開催します。
- ② 市民の健康・体力の維持増進と相互の融和を図り、豊かで明るく活力に満ちた郷土づくりのため、誰でも気軽に参加できる大会を開催します。
- ③ 生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に、いつでも・どこでも・だれでも、気軽に楽しみながら心身ともに健康で暮らせるよう、ライフステージに応じたスポーツ教室を実施します。

2 生涯にわたるスポーツライフの支援

ライフステージに応じたスポーツ活動を推進するため、それぞれの体力や年齢に応じて、いつでも・どこでも・だれでも、安全にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の整備を推進します。

(1) 子どものスポーツ活動の推進

テレビゲームやスマートフォン等の普及により、子どもたちの遊びにも変化が見られ、身体を動かす機会が減ってきています。

運動離れによる体力低下を防ぐためにも幼児や小学生を対象にしたスポーツ活動の充実を図ります。

ア 幼児期におけるスポーツ活動の推進

- ① 幼児期に運動することへの興味・関心を高めるよう、家庭や教育・保育施設（保育所、認定こども園、幼稚園等）、地域と連携し、親子での運動や外遊びをする機会を提供します。また、運動が習慣となるよう、運動の楽しさを体験する機会を提供します。
- ② 幼児期に運動することへの興味・関心を高め、心身の発達に重要な運動に関する各種教室を実施します。

イ 小学生向けスポーツの充実

スポーツ少年団等に所属していない子どもたちでも参加しやすく楽しめるスポーツ活動の機会を提供します。

ウ 学校体育の充実

児童生徒が自ら進んで運動やスポーツに親しむ習慣を身につけることにより、健康の増進及び体力の向上を図り、生涯にわたって健康で豊かな生活を送る資質を養います。

エ 中学校運動部活動等の充実

運動部活動の充実・発展に努め、生徒の運動・スポーツに対する興味・関心を高めるとともに、生徒の心身の健全な発達と技能及び体力の向上を図ります。

- ① 教員の指導力を向上させ、運動の特性や魅力を味わわせるため、授業研究会や指導者研修の機会を提供します。
- ② 安全管理のため、体育施設・用具等の日常点検、定期点検、臨時点検を実施します。
- ③ 本市児童生徒の体力向上のため、実態を分析し、課題を明確にして、具体的な策を講じます。

(2) 成人のスポーツ活動の推進

仕事や家事、子育て等が忙しくてスポーツに取り組めない人や運動が苦手なスポーツに消極的な人でも気軽にスポーツに取り組めるようなスポーツ事業や教室の開催に努めます。

- ① 仕事や子育てが忙しく、スポーツをする機会がない親子を対象とした事業の増加を図るとともに、家庭でも楽しめるスポーツの情報を提供します。
- ② スポーツをする機会が少ない妊産婦に対して、家庭でも取り組める運動の機会を提供します。
- ③ ニュースポーツや気軽に取り組めるスポーツ教室、イベント等を地区コミュニティセンターや広場で開催するなど、多種多様なスポーツ機会を提供します。
- ④ 市民のスポーツ実践の動機づけとなるよう、関係団体等と連携し、成人を対象とした体力測定を実施します。

(3) 高齢者のスポーツ活動の支援

いつまでも、健康で充実した日々を過ごすことができるよう、地域におけるスポーツ環境の整備を図り、関係機関と連携し、高齢者が気軽にできるスポーツ活動の普及・啓発を図るとともに、また、スポーツ教室やスポーツ大会へ参加できる機会を広げ、高齢者の社会参加を促進します。

- ① 健康・体力づくりのために家庭でも無理なくできるスポーツ活動の情報を提供します。
- ② 介護予防として実施している運動教室等を拡充し、高齢者の生活機能の維持・向上や運動習慣の意識を啓発します。

(4) 障害者のスポーツ活動の支援

障害のある人にとってスポーツは、身体的だけでなく精神的・社会的リハビリテーションの機会でもあり、障害者の自立と社会参加の促進に寄与するという大きな役割があります。

障害者スポーツ関係団体等との連携を図り、障害者スポーツの更なる普及や発展を目指すとともに、地域で障害のある人が自主的かつ主体的に参加できるスポーツ環境づくりに努めます。

- ① 障害のある人も気軽にスポーツに親しむことができるよう、体育館等の公共施設のバリアフリー化を進めるとともに、定期的な活動ができるスポーツ教室・レクリエーション教室を開催します。
- ② 参加者の拡大及び障害者の健康増進と市民との交流促進のため、各種大会へより気軽に参加できる環境を整備します。
- ③ 障害者団体や障害者スポーツ団体が実施するスポーツ・レクリエーション事業を支援します。

3 生涯スポーツ推進体制の充実

市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備するため、市スポーツ協会、地域スポーツ協会、市スポーツ少年団等のスポーツ団体との連携及び総合型地域スポーツクラブの育成・支援を図ります。

- ① 市スポーツ協会が、市民に体育・スポーツを普及し、生涯を通じて健康で明るく活気に満ちた日常生活を送るため、生涯スポーツの意識の高揚を図るとともに、スポーツを通じて健康・体力増進と相互の融和発展に努め、豊かで明るい地域づくりに寄与することを目的に開催する、地域対抗ソフトボール大会、地域対抗バレーボール大会、地区コミュニティ対抗綱引競技大会を支援します。
- ② 地域スポーツ協会が、地域住民に体育・スポーツを普及し、健康の維持増進とともに、地域住民の親睦・融和を図りながら生涯スポーツの推進に努め、明るい豊かな地域づくりに寄与することを目的に開催する、地域運動会、地域スポーツ大会等を支援します。
- ③ 市スポーツ少年団が、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた青少年の育成を図る目的に実施する、リーダー研修会、市交歓交流大会、国内交流事業等を支援します。
- ④ 総合型地域スポーツクラブは、市民がだれでも体力や年齢に応じて、いつでも、だれでも、いつまでもスポーツに親しむことができるクラブです。
クラブ活動について、市民や各団体等に周知するとともに、関係団体と連携しながら、クラブを育成・支援します。
また、公共の施設を活用した中で、定期的、継続的に市民にスポーツや運動の拠点となる場を提供し、各種団体の参画を推進し、地域で支える運営体制の構築を支援します。

4 スポーツ推進委員による地域スポーツの推進

各地域におけるスポーツ推進委員の役割を周知し、地域におけるスポーツ機会の提供及び普及の推進を図ります。

- ① 自主事業や各地区コミュニティ協議会主催のイベント等に積極的に関わり、だれもが気軽に楽しめる各種ニュースポーツを普及します。
- ② スポーツ推進委員の資質向上のため、県が開催する研修会に積極的に参加・派遣します。
- ③ 市スポーツ協会や地域スポーツ協会と連携し、各種スポーツ大会等の運営に携わります。

基本方針3 競技スポーツの振興

目 標

競技人口の底辺拡大と競技力の向上を図るため、市スポーツ協会等の関係団体と連携して、指導者の育成と指導体制の充実に努めます。

また、特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」や東京オリンピック事前キャンプ等のレガシーを活かして、更にスポーツ競技者の人口の拡大や競技力の向上に努め、競技スポーツの振興を図ります。

指 標

九州大会・全国大会等への出場件数（全国大会等出場助成費交付対象件数）

令和6年度 167件 ⇒ 令和11年度 180件

1 競技スポーツ推進体制の充実

競技力向上と競技スポーツの振興に積極的に取り組むスポーツ団体等のスポーツ活動を支援します。

- ① 市スポーツ協会やスポーツ関係団体と連携し、競技力向上を目的としたスポーツ大会やスポーツ教室を支援します。
- ② 競技力の向上や競技スポーツの底辺拡大を図るため、プロスポーツチームのホームゲーム等を誘致し、トップレベルの競技や試合を観戦できる機会を提供します。
- ③ プロスポーツチームなどの合宿団体と連携を図り、スポーツ教室を開催し、子どもたちが一流の選手とふれあう機会を提供します。

2 スポーツ選手の育成及び指導者の養成

市スポーツ協会及び各種目競技団体等による優れた資質の発掘と優れた指導者の養成を支援し、ジュニア育成及びスポーツ選手の強化を図ります。

- ① 市スポーツ協会や各種目競技団体と連携し、指導者の養成を目的とした指導者講習会を支援します。

3 大会出場者への支援

全国大会等に出場する個人・団体に出場助成金を交付し、大会出場を支援します。
また、市社会体育功労者の優秀スポーツ選手やチームとして、全国大会で優秀な成績を収めた選手やチームを表彰します。

- ① 市スポーツ振興基金運営委員会と連携し、全国大会・九州大会に出場する個人・団体に旅費の一部をスポーツ振興基金補助金の派遣助成金として支援します。
- ② 市スポーツ協会と連携し、県民スポーツ大会に出場する選手に、旅費等の派遣費を支援します。
- ③ 県下一周駅伝競走大会・地区対抗女子駅伝競走大会川薩地区運営委員会と連携し、県下一周駅伝競走大会・地区対抗女子駅伝競走大会に出場する団体に出場に要する経費を支援します。
- ④ 全国大会で3位以内に入賞した選手やチームを市社会体育功労者の優秀スポーツ選手やチームとして表彰します。

4 レガシー事業による振興

特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」や東京オリンピック事前キャンプ等のレガシーを活かして、更にスポーツ競技者の人口の拡大や競技力の向上に努め、競技スポーツの振興を図ります。

- ① スポーツ交流を通じた国際理解や地域活性化等のレガシーを継承するため、東京オリンピックの事前キャンプの受け入れを行ったホストタウンであるアルゼンチン共和国の合宿誘致を実施します。
- ② 特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」のスポーツレガシーの継承・発展のため、市スポーツ協会や各種目競技団体等と連携し、大会開催を通じた選手育成や講習会等の開催を支援します。

基本方針 4 スポーツ環境の充実

目 標

市民のスポーツ活動の基盤として役割を担えるよう、施設・設備の充実などスポーツ環境の整備を行います。

また、スポーツ施設の利用促進やサービスの向上を図るために、管理・運営の体制強化を図ります。

指 標

スポーツ施設の年間利用者数

令和6年度 616,861人 ⇒ 令和11年度 700,000人

1 スポーツ施設の充実及び利用促進

市民の多様なスポーツ活動を推進するため、計画的にスポーツ施設の維持管理や整備を推進するとともに、市民がいつでも気軽に安心して利用できるよう、効果的・効率的な施設運営に努めます。

(1) スポーツ施設の充実

誰もがいつでも気軽にスポーツ施設を利用しスポーツを楽しむには、施設・設備の充実が必要となります。

老朽化が進む本市のスポーツ施設・設備を安全で充実した施設として維持するために修繕計画を作成し、中・長期的な視点でスポーツ施設の維持管理を進めます。また、利用者のニーズを捉え、スポーツの多様化やルール改正による競技用具を適切に導入します。

(2) スポーツ施設の利用促進

利用者に喜ばれる施設管理のため、指定管理者と連携し、合理的な管理体制を構築するとともに、利用者アンケートを実施します。

併せて、市内のスポーツ施設の情報を広く周知するとともに、国体開催に向けて改修した樋脇屋外人工芝競技場及び入来体育館ウエイトリフティング室、また、川内川を通して交流する人々がふれあう拠点となる川内川交流センターの利用促進を図るため、スポーツ合宿の誘致やスポーツイベントを開催します。

2 学校体育施設の利用促進

地域住民のスポーツ活動の場として、学校の教育に支障のない範囲で、学校の体育施設の効率的な利用を促進するため、施設を地域住民へ開放します。

また、効率的な利用促進を図るため、学校体育施設開放事業により、運用方法や管理体制の検討を行います。

第6章 計画の推進と目標達成の実現のために

第1節 計画の推進

1 県・市関係部局間における連携

県や市の関連計画との整合を図り、また、関係部局との組織横断的な取り組みを行い、引き続きスポーツを取り巻く情勢の変化に対応した、効果的な事業を展開し、スポーツの普及振興を図ります。

2 地域、学校との協力・連携

スポーツは地域の活性化に大きな役割を果たすものと考えられることから、地区コミュニティ協議会を核としたスポーツ・体育活動の充実を図るとともに、総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進委員とより一層の連携をとりながら、生涯スポーツの底辺の拡大を図ります。

また、学校体育活動との連携や学校体育施設開放等による公共施設のスポーツへの活用を図るとともに、地域資源を活用したウォーキングやランニングなどを実施してきましたが、引き続き、いつでも、だれでも実践できるスポーツ活動の普及に努めます。

3 スポーツ団体・企業等との連携

市内には多くのスポーツ関係団体があり、それぞれのレベルやカテゴリーに沿った、自主的、積極的な活動を行っています。これらの団体の活動により、生涯スポーツの普及・拡大やトップアスリートの育成などの役割を踏まえながら連携・協力を図るとともに、必要に応じてそれぞれの取組の支援に努めます。

4 市民の自主的活動の推進

市民一人ひとりの健康づくり、体力づくりなどを目的とした自主的なスポーツ活動が盛んになっていますが、より一層のスポーツに対する理解と自主的な参加を促進し、スポーツを通じて健康で心豊かな市民生活や地域社会の実現を図ります。

第2節 計画の進行管理

計画を実効あるものとするため、施策内容については、PDCAサイクルに基づき、進捗状況を点検・評価するとともに、社会情勢や国の動向などを考慮し、必要に応じて目標や事業等の見直し、改善を図っていきます。

なお、本計画は、中間年である令和12年度に、施策の進捗状況などを分析し、見直しを行うこととします。

編集・発行／薩摩川内市 経済シティセールス部 文化スポーツ課

〒895-8650 鹿児島県薩摩川内市神田町3番22号

TEL 0996-23-5111

FAX 0996-20-5570

<https://www.city.satsumasendai.lg.jp/index.html>